第四百四十七號目次

◎口繪

草刈の休憩　獨國チエー、クロツア氏原畫

◎社説

夏休の女學生

◎家庭

子供の冇の儘の咎

女の白駄落(曲浦)◎路人に與ふる一杯の水（かも子）◎朝顔栽培法

◎史傳

小野小町を評論す　三輪田眞佐子

◎講義

夫婦アルカリの營養作用(上)

◎文藝

評釋海の上(枕草紙の一節)

露作子の作文苦心談

◎雜錄

草刈の休憩の圖に題す　鷗

今樣夫婦氣質(下)　紫琴女史

容貌婦人の如し◎泥舟空拳槍術を演ず◎

幼兒(新體詩)　花影

各地方の子守歌(一)

◎時文

松菊餘影◎鷄肋◎福翁百話◎小學遊戯全書◎多情多恨

◎片々◎時報

社告

●本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

●十日發行の分は稍や簡易實際を專らにし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。

●單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるゝものあらは其望に應ずべし

女學雜誌定價表

前金	廣告料	送金	注文
壹冊價　金拾錢 半年前金　金一圓拾錢 一年前金　金貳圓 （無郵税）	一行一回(廿七字詰)前金十錢 同　三回以上　一割引 同　六回以上　二割引 但し不道德なる廣告は謝絶す。慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く	爲替は東京四谷區麴町十一丁目郵便受取所に宛て小爲替にすべし○郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割增を添ふべし	注文は東京麴町區下六番町六番地女學雜誌社あてに申越さるべし

第四百四十六號目次

◎社説

女風一變の機勢

◎女學

兒童研究◎男女の氣質(上)◎大奥の朝夕◎台灣新設女學校の狀況◎白知教育の語に對する評

◎評論

西鄉南洲と勝海舟(下)　落花淡人

◎隨感

祇王祇女佛のさとり

◎教育

上杉鷹山公の教育

薩摩隼人の教育法◎帝國大學の組織◎京都大學の開設◎外國語の直用◎台灣人の教育修養◎小學教員の補充

◎雜錄

海舟先生詠草

御身代り　鷗村

今樣夫婦氣質(上)　紫琴女史

氷の話(其二)　鴨村耕夫

◎時文

露國形勢總覽◎新小說第二年第一卷◎片輪車◎新著月刊第四

◎片々◎時報

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎第二版成る◎

故若松賤子女史譯述

小公子

全一冊洋裝美本
番數三百五十頁
正價金三十五錢
郵稅八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇塲に演ぜらるると數十回、一代の流行を左右して一時少年の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し、讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるるを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に巻を釋る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるること切なり。即ち茲に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、鄉友松井昇氏は密畫を附せり。同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

大賣捌　東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

女學雜誌出版書目

櫻井成明譯	腓立比物語	正價金廿六錢	郵稅金六錢
巖本善治著	公娼可滅	正價金三錢	郵稅金二錢
同	教育講義	正價金七錢	郵稅金二錢
横山雅男著	婚姻論	正價金十二錢	郵稅金四錢
中島とし子著	小說 善惡の岐	正價金十七錢	郵稅金四錢
島田三郎、植木枝盛合著	廢娼演說	正價金三錢	郵稅金二錢
本社編	小供の話	正價金四錢	郵稅金二錢
同	兒育草	正價金十二錢	郵稅金二錢
炭谷小梅著	藝者と手掛	正價金二錢	郵稅金二錢
阿波鳴門左衛門作	戯曲 桂吾郎	正價金十錢	郵稅金二錢
松山高吉著	邦文學	正價金十二錢	郵稅金四錢
巖本善治著	吾黨の女子教育	正價金十錢	郵稅金二錢
同	日本女學	正價金四錢	郵稅金二錢

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

切抜通信廣告

●切抜通信の要旨

●切抜通信をなすべき概目は農工業商政治法律外交貿易政黨倶樂部教育宗教歴史詩歌運論交通土木建築鑛業山林美術技藝各人身上に關する事等凡そ諸新聞紙上掲載の件は小說廣告に至るまで其委托に應じ精閲遺漏なく勉めて配達を迅速にして以て愛讀者の便益を期す

●切抜手數料大要

●一已身上に止まる通信は一ヶ月金貳拾錢とす●一事業又は一事物に止まる通信は壹ヶ月金參拾錢より金五拾錢まで●一會社又は一國躰は全般に關する通信は壹ヶ月金五拾錢より金壹圓まで●前記の事項と雖とも一關係の範圍廣く日々記事の多數なるものは臨機の契約を爲すことあるべし●月數に拘らず件數にて委托せらるゝものは東京は十件に付金貳拾錢地方は郵税を併せ金參拾五錢とす尤も細事項は總て號外として件數に算入せす●本社切抜通信規則書御入用の方は御通知次第郵送すべし

東京市京橋區釆女町廿一番地
東京通信社附屬
新聞切抜通信部

弊會今般業務擴張の爲新に肩書の箇處へ移轉仕候間何卒倍舊の御厚顧を蒙りたく願上候

明治三十年八月一日
東京神田區仲猿樂町十七番地ホノ十四號
舊麹町區富士見町二丁目在
富士見看護婦會

耳科診察

每日自午前九時至午後四時

東京神田區駿河臺南甲賀町十番地
小此木耳科醫院
院主ドクトル 小此木信六郎

日本宗教

明治三十年七月三十日發行 每月一回卅日發行

第三卷第一號

◎日本宗教

唯信是安樂 …… 巖本善治
樹陰所感 …… 全
寒山子 …… 戸川殘花
マホメットの劔 …… 青柳猛

◎纂録

明恵上人遺訓
氷川清談
機談片々 …… 菅藻隱士
小笠原島宗教事情 …… 中島喜一郎
宇宙三觀歌 …… 鼎軒

◎潮勢

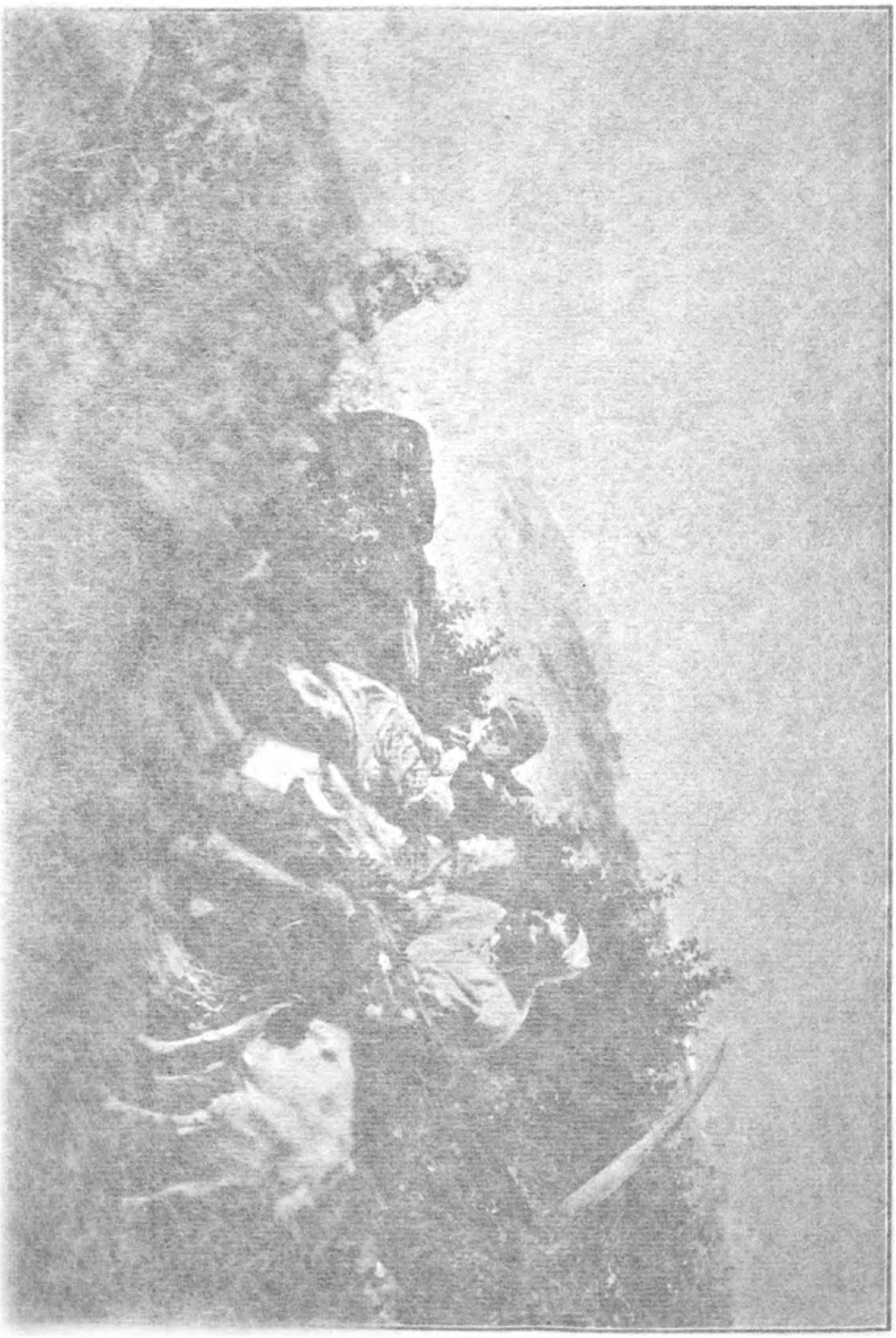
如是我觀日本主義（下） …… 觀潮菴
第九回福音同盟會
香川縣知事の談話
甚麽をか禪學と謂ふ …… 禪宗
儒と禪との關係 …… 足立栗園
日本基督教會に於ける決議案
謠曲と佛法 …… 大和田建樹

◎彙報

◎宗教比較學會記事●伊奈利と狐●大黒と鼠●庚申と猿●春日と鹿●辨財天と蛇●天神と牛●月と兎●等病災退除に於る靈佛●靈佛と夢の告●佛法と石●佛法と水●片々◎新刊雜誌細目録◎紹介等

定價一年分金一圓二十錢 一部金十錢

東京市麹町區下六番町六番地
日本宗教社



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

小川一真寫眞影刻銅版及印刷

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

の緑に長くせり。而して、其の學認の如服誑く

女學雜誌

第四百四拾七號

明治三十年
八月十日發兌

社説

夏休の女學生

（上）

日本の前代の學問には、夏休、冬休など云ふことなし。啻に之なきのみか、酷暑嚴冬の夏冬は學問の好時節にして、所云る土用稽古、寒稽古は、篤學の人の最も精神を凝すの時、學藝の進歩も長大足を刻むの時なりしに、今は反つて此の好時節を休業の日となすこそ心得ね。

此は、西洋文明國の學風を模倣するに由るが如し。西洋文明國の學校は、概して、夏冬の休みを長くし、就中、夏休を殊の外に長くせり。而して、其の學風の文明流なることと學科の高等なることを増せば増す程に、いよ〳〵此休を長くするの趣きあり、即ち、夏休は文明の學術に比例して、長引くものと云ふべし、理由なくして可ならんや。

然し乍ら、此の理由を測度するものは餘り多からず。休となれば只だ一概に休むものと心得、今時の學生には、古へに無き新らしき生理の發現せし躰にて、もしも此を欠かば前途の健康覺束なきが如く、疑懼するものあり。此をもて、暑休七八十日を徒然として消費し、朝寢、晝寢になまけくらして、曠々として爲す有るなし。秋冷の候となれば、躰量何貫を増し、精神大いに奮起せしかと云ふに、一月以上の怠慢は既に習慣となり、學思遲鈍の狀を増すとも銳敏の氣を加ふることなし。秋に入つて當分の怠惰は、敎者被敎者の同に、一樣に經驗する所ならずや、純然たる休業の價値、そも〳〵何事にありや。

つら〳〵惟ふに、西洋文明國の學風は既に分業の精きに入り、學校は主として智育に偏し、智育中にも、机の上、文書の中の講究に偏するものと定まりしかば、扨ては、年中適當の場

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

合を計りて校外に放ち、自然の天地、實際の世間に直接經驗せしめて、學校內文書的智育に偏するの弊を救ふとを可とするに至りし也。左れば、此の理由を言ふもあり言はぬもありとも、要するに、長き暑休を利益ある仕組として存置する事情は、此邊の譯柄に關係するや明けし。何すれぞ、二三ヶ月以上の連續したる休を身躰に施して、以て衞生に適せりなどと見做すべき愚論に淵源せんや。

凡そ身躰の衞生は活動にあり、休止にあらず。喩へば水の腐れを防ぎて淸淨を維持するが如、山岳之を流し、風波、之を動かしてこそ、河川洋海の水はじめて腐敗せざるとを得るものを、數十日之を休止せしめて沈滯の狀に置かば、如何なる玉水も忽ちにして腐化すべし。身躰を休ませて其生を衞るが如きは、病的看護の一方にして尋常の手段にあらず。活潑なる學生に長き暑休を與へ、其身躰を休ませて以て得たりとする如きは、抑も愚なり。

但し、一樣變化なきの活動は、遂に活動なきと同樣の結果を生ずるものなれば、折々は轉換の妙を調へて、單調子の懶さを破ぶるを要す。一日の學科にても既に亦然り、況んや一年の修業に於ては、固より此邊の用意なかる可からず。夏期若干の日月を割きて、校外自由の境に放ち、靑山白水の媚を呈する所、野花草露のにほひを薰ずる所に逍遙遊せしめ、以て何ものかの別學科を自得せしむるは即ち轉換の妙なり。身躰滋養の爲にも之に優る者はある可らず。此の理由に於て暑休の効能を演ずるものには吾人素より贊同す。但だ其の無爲に身躰を休止せしむるとを旨とせず、反つて別に大に有爲の新學科に就かしめんとするの主意あるを知れば也。

此に於てか、吾人は、西洋文明國の教育に夏休あるの理由を得たり。今の夏休に從ふの人士もし西洋の學風に模倣するあらば、當に其の精神に酌むべし、單に其の形式にのみ盲從すべからざる也。

（中）

西洋に、ユニバーシテー、エキステンションと云ふとあり、大學伸張とも譯さんか、嚴然たる大學に來り學ぶと能ざる者の爲めに、其の學科を大學以外の地に講演し、大學の感化習慣を、大學ある地と懸はなれたる地方の人に及ぼし、諸種

の方法を用ゐて、大學の學藝學風を遠きに伸張するの主意なり。近年、東京早稻田專門學校の講師諸君が、隨時各地に巡講せられたるの主旨も亦た此に則とるものと聞えたり。

方今女子敎育新たに起るの時節には、一種の女學エスキテンション（伸張）の法を用ゐ、各地方女學校なきの地に、女學校の効益を知らしめ、其感化を普及するの手段を講ぜざる可らず、暑中休暇に於ける女學生の歸鄕は正さに此の好方便にして、女學校の學術、思想、品格、感化等を各地に散布するの捷徑なるべし。

僅々たる年月、都門市町の女學校に留學したる効驗は驚ろく可し。學問の功德は斯くも恐ろしきものか、僅かの間に大相のもの識となり、行儀も好く、勘辨もつき、我儘も直り、人に對して挨拶も上手になり、手紙を書かせても、帳面を付けさせても殊の外、役に立つやうになれり。而して、氣品勝れ、見識立まさりて、あつぱれの人物となれりなど思はんには、田舍の紳士、地方の父兄は、既に女學校の敎育なるものに、非常の信仰を寄せ、到る處觸れ廻りて、其の効能を說法すべし、女學は忽ちにして伸張するものと云ふべし。

然るに、事の實際は此等の豫想に反するもの多し。女學生、學窓の年月に一種の新習慣を生じ、男に非ず女に非ざる異樣の態度を造り出でて、田舍人を驚かすと尠なからず。況んや、夏休保養の覺悟をもて家に歸り、父母兄弟の信切なる優遇に甘んじて、凱旋の將士、家に歸休するの心地となり、朝寢、据膳の馳走に日を暮らして、田舍の世話しき勞働を餘處に見すごし、學生は斯く瑣末の事に頓着するを不可とすと云ふの見識にて、朴直質實なる各地方に一種奇態の現象を呈せしむるものもなきに非ずと云ふ。

蓋し、地方にありて、耳目日常の瑣事に慣れ、變化なき多年の舊習慣を堅固なる道德と觀じ來れる田舍人の眼中には、かの學生が見て以て瑣末の事件と爲すらん事物も反つて非常の影響を及ぼすべし。都人士が、地方に行て失策する元因多くは此邊に存するものなれば、獨り女學生の不心得をのみ責む可らずとするも、彼等が此般の事に於て不評判を買ふとの多きは、爭ふ可らざるの事實なり。

夫れ、女學を伸張するか、もしくは縮小するか、其責亦た歸鄕女學生の双肩に荷はれて存す。豈に放逸怠慢の無責任を許

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

さんや。

（下）

大事は大率ね小事によりて破る、是れ大事を念ずるほどの人は、小事を見て小事とすれば也。然し乍ら、此の小事が反つて他の凡俗の爲の大事たらば、凡俗の爲に大事を計らんほどの人は、即ち此の小事を見て大事とせざる可らず。大凡そ大志遠識あるものは、悚々として所云る小事に掛念するの主旨こゝに存す。

かの深遠の學に志し、高尚の理想に思を寄する女學生に於ては、自から日常卑近の瑣事に縁遠くなりて、吾知らず、其消息に疎とならん傾向はあるべし。必ずしも一般に之を責むべからず。乃ち責む可らずと雖ども、亦た寛假して放任すべきとにはあらざる也。苟くも遠大の心あらんものは、亦た卑近の心掛なかる可らず、況んや、將來家庭の主宰たるべき女學生に於てをや。

左らば、女學生は、世界天地の宏やかなる學藝に志を寄すると共に、眼前日常の瑣事に思ひを通ずるとを忘れず、能く其執心を實際にして、人情世態の曲折を辨じ、凡俗卑近の好惡趣味を承知せざる可らず。女學生もし此の勘辨なくば、儒生國家に用なきと等しく、女學生は遂に家庭に無用なるものとなるべし。

此をもつて、女學校の普通教育は常に實際世間との交際を忘れず、其の學風を經驗的にして暴りに空論に流るゝの學弊を豫防せざる可らず、これ今の女學に取りて甚だ緊要なる事なれども、凡そ今の文明流の學校組織に於ては、其學科の自からにして文書的智育に偏するの失を免る可らず、之れ多數を集めて文書講述に學科を教授する今の學校制度に於ては已みがたきの運なりとす。女學校と雖ども亦た此の大勢より逸すると能はず。

左れば、女學校暑休の餘暇をもつて、家政學實地の修業にあて、地方田舍の士人と直接關係して、實際世間の人情を學得せしむるは、學校外に施す所の一の新學科也。女學校の暑休なるもの、幸にして此の道に順由せば、女學生は一二ケ月の歸省中に活ける新らしき智識を得、其の身躰も亦た壯健に氣性も亦た實際に慣れ、秋季、學校に歸りて更めて文書に

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

就くの時、未曾有の活潑々と、活きたる新生面とをもて學科に對するに至らんと必せり。

夫れ、女學生、暑休に家に歸り、地方人瑣細の批評に掛念して、戰々兢々として其の言動を愼しむは、可なるに似て、未だ善なりとせず。これ實に消極無爲の憶病なれば也。若かず直ちに實際を學ぶの覺悟をもつて、家庭の奴僕の間に伍し、出入奉公人の應對に當り、日々夜々の瑣事を擔當し、自から之を實驗して其間の消息を學得するの精神を熾んにし、眞に積極有爲の抱負をもて此等の家政に當るべし。必らずや、尋常俗人には何の價値もなきものとして看過せられたる仕事の間より、輝然として新光明を放つを見、油然として新趣味を起すを認ため、將來の女學及家政の上に莫大の功獻を爲すとあらん。而して、此等の事務に拮据する女學生の活潑なる風動は、忽ち一地方の耳目を惹き、彼等が其の事務の間だに發揮する學問の効德を見て、實地に學者の意氣を覺り、奴僕先づ感激し、出入奉公人次に感服し、地方の紳士父兄語り傳へて、女學のエキステンション自から成らん。

家庭

子供の有の儘の答

近頃或敎師が、十二三歲の女子供に對し、三つの問を出して、答へを書かせたるに、さま／＼の答ありけり。天眞流露して、面白き事、可愛き事、恐ろしき事、戒しむべき事、學ぶべき事、いと澤なりと覺ゆれば、子供の育て方に心がくる人々の爲にもと、乞ふて左に其まゝを掲載せしむ、

問

(1)つねに自分をいぢめ、自分にあたする兒、雨降る時に、かさなくしてぬるゝを見るときは、かさをかすべきや否や。かすもかさぬもくはしくわけをかくべし。

(2)家貧しくして着るべき衣服なく、死ぬまでに饑て食物なき時、人あり若し一度うそをいはゞ、なんでも買ふ事の出來る櫟澤山のお金(百圓)をやるべしといはれし時、うそをいふべきや否やくはしくわけをもかくべし。

(3)夏休中、朝は何をなし、晝は何をなし、夜は何をなさんと思ふや、しやうぢきに、考をのぶべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

答

(1)其時はあたをする人にてもしん切に傘をかしてやるはよき事なり
(2)うそをつくのは大へん悪き事なれば正直にしてうそをつかないほをがよろし
(3)朝は早くをきてかをゝあらゐてそをじをし飯を食してちやまんをあらい先たくをしそれより昼御飯を食してちやまんをあらい習學しさいほをし夜は讀書をよみ其れよりいね

---

(1)己にあたする人にはこれからよくいゝきかしてあたしなければこの傘をかしあたゆべし
(2)食せずしてしストモうそをついて他人ヨリ百圓をモらうよりモういてしストモうそなそハつかないように小どモのうちより心かけをスべし
(3)あさははやくをキて父母の手だスけナスべし日るはむやみニ外ニ出ズうちニいてべんキヤうをナスべしよるはかヤのみがいるゆえべきやうモできざればすゝみニゆき又はやくねてハやくをキルべし

---

(1)あなたはふだん私にあだばかしなさいますからあなたのような人にはかさをかしません
(2)たべものがなくてもうそはわるい事ですからしんでもうそをつかないでをかねハもらいません

(3)朝は早くをきて様々の事をなしひるは用なければ本習字などをする夜るはぎよう水おしてからはもうあつき故すゞみおるなり

---

(1)たとへどのやうにいぢめても魚心あれば水心ありと云フたとへがありますから傘の中へ居れてやります
(2)どんなに貧しくて食物がなくてもうそはつがないはうがやうございますなぜといへばうそといふ事はまことにわるい事でございますからうそはつがないはうがやうございます
(3)朝は第一床をかたずけまして次ぎに庭をはきざうきんをかけますおひるには御ぜんのしたくをして後本のふくしうをします本のさらいをしてけいこに行きます又夜はけいこをさらいます

---

(1)あなたはしじうともだちにあたをなさゐますから今雨がふつて居りますれども傘をかしてあげません
(2)たとひ食物なくて死するともうそをついてハなりません
(3)朝はおきて水をくみ家のさうじをし又昼は又ぜんを出したりなんぞをし夜は父母のとこをひたりなぞするべし

---

(1)わるい人なれどもかわいそを故かしてあげます
(2)食物がなくッてもうそをつきません
(3)朝は早くおきよをしまます書はあつき故内にいてよをゝします夜はすこしの間すゞみにでて内へかへッてからべんき

よをします

(1)たといいぢめてもきのどくだから傘にいれてあげます
(2)たとい食物なしてうゑじにしてもうそはつかぬ方かようでざいます
(3)朝は早くをきて内のさうぢをしてから本を讀み晝は遊び夜は外へ水をまき又用をすましてからすこし涼みます

---

(1)ふだんのおこないでかしてあげません
(2)うそをつきません
(3)朝は修身算術習字讀書なずのふくしやうをします晝は用事をいたし夜はのぶりやうにまいります

---

(1)其時はそゐでも又こんどいじめられぬやうに傘をかします
(2)其時はそいでもうそつくとあとにながのこりませんからしんでも其金をもらいたくありません
(3)朝は早くおきてそうじをなし又ひるは父母のてつだいをなすよるはをやしよくをすめば少しやすみそしてとこをとりをくなり

---

(1)此のこどもはイじめますから雨ふる時はカしてやりません
(2)うそをつかないでしぶんで一しよけんめいになんでもよくありますからはたらいてたべたほうがよくあります
(3)朝は母や父のてつだいをいたします。晝はしぶんのべんき

よします。夜は本んでもなんでも少しべんきよしてそれからすゞみに行きましてもよをでざります。

---

(1)其時かさを二本持チテモ常ニイヂメラル丶カラトイツテカサズト云フハ人ノ道ニアラズ一本ノカサ持チテモ共ニ入ルベシ
(2)ウソツクコトハ悪キコトナレバウエテモモラウベカラズ
(3)朝は早ク起キテ諸々ノソウジヲナス晝ハ學校ノモノヲサライソレヨリ弟ヲナドヲ遊バスベシ夜ハ弟イモヲトナドヲフセシメソレヨリミセバンヲナスベシ

---

(1)答その時には傘なくてもかしてやりませぬなぜといへば常に人をいじめたりしますからかしてはあげませぬ
(2)答そのときにはうそをつかづしてしようじきにしてしんでしまんたほをがよろしくありますなぜといへばうそをついて百圓むらつたんてもそのときニハよひけれどのちニハわるくなりますからうそをつかづにしようじきにしたほうがよろしくあります
(3)朝ははやくおき庭などをはきて父母のてだすけをし又晝ニハようないときニハ本をよみ又手ならひなどをすべし又よるニひまあるときは母のかたをたゝき又つかひあればなすべし

---

(1)答入てはやりませんなぜかさない常にいじめられるから

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

(2)答うすをつきてをかねをもらあうほがはよをございまし
(3)答朝ははやくをきしるやすみ夜はよわそびをしぬよをにすべし

(一)かたきのともとてもしんせつにするとよろこぶゆへ傘をかすべし
(二)うそをつきますといつしようのはじになりますからうそをつかぬはうがよし
(三)あさはやくをきて家のてだすけをなすべし晝は學問をなし夜わはやいねてからだをすこやかにすべし

(1)私はしじういたづらをされましたけれどもそのことはかまはずいたしましてかさをかしてあげます
(2)たとひ食物をたべませんでも人にうそをついて金をもらうことはよしましてりつぱにしたほうがようございます
(3)朝は早くをきましてそこひらをあつくゐしくなくきれいにいたしまして晝はごはんをすみましたらすこしはひるねをいたしましてよゐになりましたらにはにでましてすゞみます

(1)此子どもはなぜでもいじめますからかしてあげません
(2)此人はなせでも人にうそをつきますから百圓をあげません
(3)朝はあちこちをそうぢをなし又晝はせんたくをなし又夜は本をふくしうします

(1)答私にあたをしますからかしませんなぜといふに私をいじめましたからかしせません
(2)答私はうそをつくよりしんでうそをつかないほゝがよござんすなせといふに人にいちしよいわれます
(3)答朝はお母さんのようをてつだいますおしるからはしうじおいたしますよるは九時はんごろまでとくほんをさいらいます

(1)ふだんあなたは私をいぢめなさるが今は傘がなくッてこまりませうからかしてあげますからこれからきをおつけなさい
(2)うそをつかないでうへじにをするほうがよろしくなります
(3)朝は父母の手だすけをなす晝はふくしうをなす夜は休む

女の自墮落

曲浦生

自墮落、しまりのなき、男子にしても素より耻むべきにあらねども、さりとて男の万事に細やかに、重箱の隅を楊枝でせゝるやうなるは、甚だ厭はしく寧ろ多少しまりの無き處に愛

嬌あり、可愛氣あれども、女の自墮落にして、しまりのなきに至りては、實に見下げ果てらるゝものぞかし、されば迚て重箱楊枝的なるがよきとにはあらで、他人の感情を害せず、隣交を破らず、家庭の不和を起さず、節約の塲合を考へたる範圍內に於て、陽はやゝ大様に、扨て陰はつゝまやかなるがよし。されど陽は大様なればとて其度を超えて、しまりのなきより自駄落となるは、女の不心得の最とやいはん。

世人多くは女學生を目してお轉婆と惡口す。責むると多くは酷に過ぎて、要求事理に叶はざるとあり。女生の學校に學ぶ時代は半分は男らしくあり、荒々しき處のあるが常なり、多少お轉婆ならざる女學生は、病弱なるものか、さもなくば年不相應にマセクリてイヂケ、一生心の伸びやかに、ゆつたりとしたる處のなきものとやならん。丸で繼母育ちの兒のやうになる。世人の女學生は御轉婆なり、これも女德を欠ぐ、あれも女德を欠ぐと口やかましくいふは、恰も繼子いびりするやうなるものにて、眞に女子を思ひ、人の發育を患ふるものならねば、素より取るに足らず。十二三の女の兒が竹馬に乘り、木登りをなしたりとて、お轉婆盛りなれば無理ならずと誰人もゆるして、女德を欠ぐなどゝは非難するものはなし。さるに女學生の時代は、なほ此小娘のお轉婆盛りのまだ止みおほせぬ頃にて、荒々しき行爲のあるも當然の事なり。殊に心を學問に入れて第一の務となし、加ふるに二三百人の多人數と起居寢食を共にする上は、到底箱入娘のやうに、なよ〳〵と風に吹き飛ばされさうにばかりしては、居られず、多少打まかせたる行爲のあるも、強ち咎むべきに非ず、寧ろ大目に見過すべきものなり。

されどこゝに謹むべきは、女學生の多少お轉婆に打まかせたる行爲のあるべきが當然なりとはいへ、それより及ぼして、後年までも矯め難き自墮落にしてしまりのなき性根の慣ひ性となるとなり。盛りの過ぎていゝ年をしたる女學生上りのものの中には往々朝は朝寢坊、紙屑拔毛を庭に放り散らす、人に愛嬌乏しく、老人無學者を笑ひ、世上並の交際情誼を阿諛と輕蔑し、ツンと澄まして之に氣を留めざるを、却て眞率なりと思へる、洗濯裁縫炊事などの女の役も、己自から爲さぬと高尙なりとして、兎角人を頤で使ひたがるなど其外、一事が万事を亘りて、懶け、打やらかし、自墮落の癖ありて、心あ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る人の譏笑を受くるもの少からざるは、もと其天性に由るものの多かるべしと雖も、また其女學校殊に寄宿舍に在りし時分に、人より多少大目に見過しにされたるゾンザイなる習慣の、沁み付きたるもの必ずや少からじ。天性に由るといふと雖も、習慣は其天性を易ふることを得べきなれば、兎に角に此厭ふべき自墮落根性の悪癖は、即ち本人が年若き時よりして、日夜の心掛の足らぬの責に歸せざるを得ず。女學生時代は即ち女の多少男らしき時代にして、お轉婆に荒々しきものありとても、悉く咎むべきには非らずと雖も、なほ其中にも、女の謹しむべき事々に心を用ゐて、自墮落根性の沁み付かざるやう勉めずんば、折角の切磋琢磨も、中ば其効なしとやいはん。抑も女學生時代と雖も、世人をしてお轉婆の悪口をなさしむるは、多少徳に欠ぐる處なしとせす、たゞ看過許容して之を責めざるべきのみ。學問とは何ぞ、人の徳を立つる所以なり、多年女學校に螢雪の功を積みたる結果として、多少の學才は勿論これあるべし、されどもまた自駄落、しまりのなき所作の、年若き男子の目にさへ厭に感ぜらるゝやうの女學士諸君を生ずるを見て、吾人は此人未だ學ひずといはんとす。

吾人をして敢ていはしめよ、女の自墮落なるは、女子の本性に違ふものなり、あるまじき沙汰なり。女の謹しみの甚だしく欠げたるもの、世人の語を假りていへば、即ち女徳の頽廢せるものなり。容顏花玉の如き女子とても、學識秀絶の婦人とても、一度其自墮落さ加減を見せられては、直に愛相も盡き、興も醒めん。

男子の自墮落にしまりのなきは、家名を汚し、産を破るまでの甚しきに至るものならねば、其害一身に止まれりと雖も、女少しく自墮落なれば、忽ち夫及び子女のシミッタレとなり、一家の不齊理となり、男子が如何に切々と稼ぎて氣を揉むとても、家の治まる時なく、家族の浮ぶ瀬なし。一家の齊理平和は何ぞ、第一女の引きしまりたるに由來す。あの家は女房で持つて居るとは、女の分限を超えて出しやばるを悪口するものなれども、眞理また自ら其中に在り。女の仕末不仕末は家を保ち、家を破る。一家既に然り、一國また其百般の社會に於て、其仕末方、保安法に就て、女の仕末よきと、引しまりたるとの眞性に俟つ處なかるべからず。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

路人に與ふる一杯の水

かも子

夏や天熱し地燒け、日中渇して途に喘ぐもの、人あり牛馬あり。此時涼陰清冽の泉を一掬するを得んか、亞弗利加の沙漠ならねども。オーシスに到れるの思ひありて、これよ夏の日の道行きぶりの命と頼む處よと、誰思はざらん、誰か此處を立去らまうくせざらんや。再び勇氣を鼓して、行手に急がしむ、山陰野中の清水、實に夏行く旅人の力なりけり。市に入れば氷屋の渇を醫すべきに乏しからざるも、また氷屋もなく、井もなき片端の町に、とある軒端の日陰を占めて、清げなる桶に清水汲み入れ、茶碗添へて置きたるは、此家の主人は如何なる慈悲の人なるらんと、思ひやられ、其たゝへたるは亦頁き水なるべしと信ぜて、一椀に涼を取りて、之を德とするもの尠からず。殊に炎天熱砂を蹴りて、曳々車を引く力夫などには、難有さ何程なるべきや。キリストは旅人に一杯の水を與ふるものを以て大なる慈善の行となし玉へり。吾人は來る年も來る年も、夏になれば、軒端に清水を備へて、旅人を待つの家尠からざるを見て、假令、其恩を被らざらんも、其人の心掛の厚きに感ぜずんばあらず。人の德をなす、極めて些細の心掛よりして、大に人を感ぜしむるとあるものなり。

四五年以前予一夕友人と散歩して、某町に至りし時、如何しけんふと下駄の緒を斷ちたりければ、友人と紙捻よなどいふ聲を聞き付けて、傍なる家より、薄暗がりなりければ、確とは見分けざりしも、四十路餘と覺しき一婦人の、戶を開きて、此處に緒の切れあり、差上げんといひしに、予はたゞ其厚意を謝して、其物は受けざりしが、なほ其家の人の如何なるものかを知らざるも、其心掛の厚きに感じて今に忘るゝ能はず、こはいたく予が心を動かしたればなり。一杯の水の人をして恩に感ぜしむる亦此類なるべし。

されば予は心ある家庭にては、夏は軒端に清水を供へて、旅客または勞働者の醫渇を待つを望む。特にこれを其家庭の小兒の受持ちとなし、手桶の出入役、茶碗の洗ひ役、水汲役と役割を定め置くなんど、妙案なるべし。水は清きを撰び、なほ煑冷し、若しくは麥湯枇杷葉湯などば、殊更に人の益をなすべければ、可成くわかすべし。此善擧をなすに何程の手數

と幾許の費用とをか要すべき。且つ小兒をして之を擔當せしむるに於ては、不知不識の間に、大に其慈善の心、仁愛の徳などを養成して、此等は其性質に入りて、其後年を幸すると大なるものあらん。百篇の倫理書、千回の忠孝談、遂に自ら路人に一杯の水を與へしむるの効に及かざるものあらん。此他門端にガス燈を設けて、暗夜の行人を照し、邸前の泥濘に板叉薦を布いて、通行を便ならしむる等の事を計り、而してこれをなすは皆小兒の務たらしむるとは、其慈悲仁愛の精神を啓發すると頗る大なるべし。

朝顏栽培法

◎朝顏と書くは元來あて字にして牽牛花もしくは蕣と書すべし。秋の七草の中にいへる槿、ふるくはむくげの事なり。朝槿一時の榮などいふもむくげの事なり。

◎朝顏は旦に早く籬などに咲き出でゝ、露と共にしぼむを愛づるなり。櫻は散りやすきを愛で、朝顏は凋み易きを愛づ。

果敢なきを哀れむの意多し。

山がつの垣ほにさける朝顏は東雲ならであふよしもがな　貫之
朝日さすほどなもまたぬ朝顏はたゞ面影の花にぞ有ける　俊成
おきて見んと思ひし程に枯にけり露よりけなる朝顏の花　好忠

◎朝顏は變種を生じ易き花にして、文政元年十二月秋水茶寮庾菊の撰びし『朝顏水鏡』には、花の種類四十七種、葉の種類四十六種と載せたれども、天保三年に成りし佐藤信淵の『草木六部耕種法』は其品二百七十餘種と記せり。されど世人の之を愛づると、年を經て衰ふるとなきより、人工天工共に珍品を増加し、今にても毎年異種を生じ、其數數百種を以て算すべし。今日珍しき朝顏の種子は一種五六圓を價すといふ。

◎異類多き中にも、古へより名高きは

亂獅子（花切れて瓣の數多きもの）◎孔雀（花筒より細き花瓣の長く抽出せるもの）◎車樓（花筒より長き蕊の抽出して、其端に菊の如き花を開くもの）◎宇津河（葉小さくして厚く縮みたるもの）◎松島（葉の黄色にて青き斑の有るもの）◎石下（數多の莖皆寄着して一箇の扁平なる太莖となりて枝なく花多きもの）◎縮緬（花の細に縮みたるもの）◎月暈（花白く筒中の紅なるもの）◎濱千島（葉小に花亦小く夥しきもの）◎柳葉（葉細長にして柳葉に似たるもの）◎風看（葉の絲瓜の葉に似たるもの）等なり。此名目は『草木六部耕種法』に見えたり。此等の種類よりまた種々大同小異の變種を生ず。

◎朝顔の花、常色は白と琉璃となれども、今は淡紅、深紅、淡紫、深紫、淡藍、流黄等あり。間道もしぼりも混色なるもあり。花の形狀も大小長短、裂瓣、合瓣、縮瓣、單、八重、其種類、其名目擧げて盡くすべからず。其筒の短くて上にヒツクリカヘリたるをば凡て茶臺といふ。また蔓ならで木立のものもあり。

◎種子は二月上旬より春分頃までに苗代に下すべし。土地は肥えたるはわるし。肥えたるには河砂を三ヶ一割混ぜてよし。東京にては下谷、淺草の地面朝顔に好適し、本所之に次ぐとぞ。よく肥えたる地面にては、蔓計り大きく生長して、花小く色さへず。赤土に肥土をまぜ小便灰を入れたる苗代をよろしとす。地性惡くば、芥の流込める堀の揚土をよく乾して肥料とすべく、さもなくば芥溜の下の腐れ土を振ひて用ゐてよし。

◎肥料は糞肥を寒中にとり置き、其中へ魚の腸、豆腐の滓、干鰯、ゴマメ、油のメ糟等何によらず有合次第に追々打込み置きてよく腐れたる時、水を汲みかけてよし。餘り濃き時は米粓水を割り合すべし。寒中の貯へなくば、干鰯を粉末にして水にゆるめかけてよし、惡臭なく上品なり。又豆腐の滓を曝し、小便に混ぜてよし。又魚腸を腐らしても亦下水をかけてもよし。荏糟、種糟は一旦肥えて葉も色黒々と艶深くなれども、生長の後葉に虫を生じて花葉を害するの虞あるが故に好まず。

◎生長したる苗は八十八夜前後に移し植う。苗分の法は卵割より葉の三枚も出でなば、日和の良き夕方に一本づゝに、ざる籠に入れて畑に植ゑ、笹を立つべし。夫れより三四日が間は日よけをなすべし。ざるは直徑三寸深さ之に叶ふ。扨て五七日も立ちて根付きたる時一通り肥をかけ、花出でゝより善惡を別ちて、鉢等へ移すべし。ざるあるが故に幾度植ゑかふるも枯るゝことなし。苗分は雨天の日になすべからず。さすれば日和になれば枯るゝなり。

◎植うる場所は朝日をよけて、晝よりして夕方まで日あたりよく、風通しの宜しきを擇ぶべし。夕日あたれば、花もゆたかに咲きて色艶よし

◎大輪の花を仕立てんとには、大きく咲くべき種子を擇み、日あたりのよき場所を、深さ一尺程に堀りて魚の腸を埋め土

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

をならし、間三四尺づゝ置きて、支柱にすべき竹を立てて、其脇に種子四五粒づゝを伏すべし。卵割の肥えて勢よきを一二本宛のこし、痩たるを抜き棄つ。それより中葉出づる前に一通り肥料を施し、笹を切りて日おひをなし、蔓の五尺位延ひたる時、梢をとゞめ、枝を出せば、葉三枚づゝ殘して梢を摘む、夫れより枝の出づる度毎に、二葉三葉づゝ殘して梢をとゞめ、幹ばかり蔓のやうにし、肥料をよくすれば可なり。

また別法は土五合入鉢に、よく尿土を入れたね四五粒を其中へ蒔き、發芽の後程よきを殘して其餘を去り、莟あらはるゝ節、一升程入鉢に肥土に干鰯等を混ぜ鉢の底に敷き、其上を土つきのまゝ移し植ゑ、尿土の砂がちなるを和かに入れ、扨て其鉢を土の中に埋むか、又は三升ばかり入る鉢の中に土を入れて埋むべし。花は三四輪付けて、其餘は芽出次第に摘み棄つ。總じて葉の小さく花の大きなるがよし。

◎生花の法にて、夜に朝花を咲かすとあり。そは翌朝咲くべき莟の勢よきを撰びて其上に、今朝咲き過たる花を摘みて鞘に着て、井の中につり置き、入用の時の一刻まへに取出して陰に置て鞘を去り、よく水氣をとれば丈夫なる花咲くなり。

史傳

小野小町を評論す

三輪田眞佐子

生れし所はいづこ、そが父母は誰か。問ふも定かならざるより、果ては實際この世になかりし人物ならむとまで言はるゝ才女は、小野の小町なりけり。おのれ幼きころ稗史を見しが、その中に小町は穢多の娘ならむとあり、奇なる哉。いでや如何なる人物なるか評論せむ。

拾芥抄に、小町は出羽の郡司が女なりとあることそさることとならめ。その時代は清和若しくは仁明の朝ならむと傳ふ。遍照集に小町と初瀬寺に會ひて、應答せしこと見ゆれば、兎に角その頃の人物なりしとは疑ふべからず。

まことや小町は、わが國女流文學者の先鞭者なりき。そは延喜以前に現はれしものなれば、紫式部あるは清少納言などの才媛もまだき世に出でざりしころなればなり。

紀の貫之が小町を六歌仙中に撰びしを以て見れば、當時文學上拔群の譽ありたりけむかし。進みて小町が關係したりけむと傳ふる人々は、各當代の名士多かりければ、上流社會に交りしことも明なり。今その例證を擧ぐれば、

わびぬればみをうき草の根を絶えて
　さそふ水あらばいなむとぞおもふ

の歌は文屋の康秀が參河の掾になりて下るとき、贈りしものなりけりとかや。

色みえてうつらふものは世の中の
　人の心の花にぞありける

こは大江維章を恨みてよみたりとぞ。

おもひつゝぬればや人のみえつらむ
　夢と知りせばさめざらましを

なる目的の人物は、在原の業平なりと言ふされば、小町の知己を友てその人となりを知るに足らむ。

以上は悉く戀歌なるを以て、世人稍もすれば、小町は淫猥にして節操なく廉耻なき女子なりけむと判斷せむかなれど、おのれは直にこれらの句を讀みて、皮相上よりその人物を高下するは酷に過ぐるものと思ふなり。そも〳〵かゝる歌を贈答するは、その頃一般の風習にして、などか小町一人に限らむ。かの業平のものし伊勢物語などを見て、直にその人物を推測して、彼は淫逸なりけりと言はむか、當らず。實に彼は慷慨有爲の大人なりけりとは、目下史家の定論にこそあれ。蓋し小町は容貌の美麗なりしことは、今なほ田夫野人も美しと言はゞ、そを聯想するばかり口碑の高きにつきても、多少眞を置くに足らむ。

元來小町は品行大に亂れたるにはあらず、全くその身のほどを知らざるため、否自ら高しとなしゝため、いみじき天才と美姿とを恃み、こよなき希望及び空想を構へ、なべて平凡の男子などを輕蔑せしほどに、花の色はうつりにけりて、末路悲境に陷りたるならむを以て、などか身を汚しゝことやはありける、寧ろ憫然の至りならずや。若し然らずして小町が弱行の女子なりしとせば、その才その美のため容易に名士の内君ともなり得たるならむに、さることのありし證跡は更になく、終始孤獨なりたるものゝ如し。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

死して康秀に贈りける歌は、身を浮草の根をたえてと、これまで剛情無垢なりしを知る種ともなりなむ。且つ業平を夢にだに戀ひしことは、反りてその志望の高尙なる例ともならむか。如何となれば業平は阿保親王の第五子にして、從四位上右近衞中將なる、やむごとなき方なるを、僅に郡司の女ながら彼を懸想したりければこそ。されどこれらの關係果して眞なりとせば、既に純白清淨の女子たる資格は失ひしものぞかし。

繪本倭比事に、小町の幼きよりもてなされしありさま、衣には錦繡をかさね、身には蘭麝をくんじ、口には和歌を詠じて、常は女御后にならむことを心にのぞみけるに、十七才の年より、二十三才まで六七年のちうに父母兄弟にわかれて、立よるべき便もなく、いみじき昌へ、日々におとろへ、花やかなりしかたち、年々にすたれつゝ、心をかけし人々も、次第にうとく成りて、終に野山にたちらひ行きけるとかやとあり。これ亦その大望心を證するに足らんか。

なほ小町の人となりを知るには、充分の材料なけれども、その精神を吐き感情を露はしゝ歌を參考せば、その性行及び境遇の一斑を知るに邇からむ。

やよやまて山時鳥ことづてむ
　われ世の中にすみわびぬよと

あまのすむ浦こぐ舟の梶をなみ
　世をうみわたるわれぞかなしき

ながらへば人の心もみるべきに
　露のいのちぞかなしかりける

などの觀念は、小町の歌に一として含まざるはなし。古今集の序に、その歌を評して、あはれなるやうにてつよからず、いはゞよき女のなやめるところあるに似たり、つよからぬは女の歌なればなるべしとあり。こは單に歌躰につきてのことならむもかゝる悲觀的の理想を歌ふに至る所以のものは他なし、その生涯失望及不如意のことのみ多かりける事情に陶冶せられけむ。思ふに厭世的の人となるには多く榮華の境遇にありながら、遂に零落せしもの、若くは遠大の希望を懷きしものが、一朝無常の嵐にそが夢想を破らるゝより甚くものぞかし、兼好及西行の兩法師もその類ならむ。

さて宇宙を大觀し悟るところありて、俗塵を脫するを得る者

はをさく凡人ならじ。されど世路難に堪へざるため、醜聲を放つものは、決して人傑と言ふべからず。苟しくも偉大なる人と仰がるゝには、大義名分を守り、たとひ渇せんも盗泉の水を飲まず、いやまし進みにすゝみ、倒れて後に止む覺悟を以て、千辛万苦を排しつゝ生涯の成敗を天命に委ね、心廣く躰胖かなるものならざるべからず。この標準を以て評せば小町は最早浮世に對する勝者にあらずして、敗者なること口惜しけれ。

さりながら小町は人生につきて、一種の觀念を有するものなれば、單に蠢々として衣食する常人と同一視する勿れ。

山里のあれたる宿をてらしつゝ
幾世經ぬらむ秋の月かげ

などはその非凡なるを見るに足るべし。故に若し運命小町に與みして、適當の地位にあらしめば、後世歌人として知らるゝのみに止まらざるならむものを。

要するに小町は空想に驅られて、時運を得さるため、美玉の質を懷きながら瓦石となりはてしものなれば、一種異調の女傑たりしとはいへ、世範と仰がるゝ能はざるこそ、憐むべきものなれや。わきてその來歴の詳ならざるより、難議紛々遂には冤罪を蒙りて地下にあり、あはれ。

講義

夫婦アルカリの營養作用（上）

陸軍藥劑監石塚左玄氏著す處、『化學的食養長壽論』あり。夫婦アルカリ（一名夫婦鹽）の相互人躰營養に動作するの妙理を說くと、諄々其說を盡し、切々其用を辨ず。頗る有益にして、また趣味に富む。蓋し近刊有益書中の最なるものとして指を屈すべし。今其書中に就いて、要緊の點々を摘拔して、之を示す。此書の處論にして、犯すべからざるの眞理なりとすれば、以て家庭料理法の上に一大變革を來たし、今の肉食衛生論を排擊して、菜食滋養論を是認せしめんとするものなり。家庭の人必ずや之を一讀せずんばあらず。

◎夫婦アルカリとは、加里、加里鹽を夫姓とし、那篤倫を婦姓とするものなり。加里は一名剝篤亞斯、加里鹽は一名剝篤

亞斯鹽と云ひ、那篤倫は一名曹達、那篤倫鹽は一名曹達鹽と云ふものなり。

◎那篤倫鹽とは主として食鹽、及海鹽、山鹽及身鹽、汗、鹽氣等を稱するものにして、化學的名稱は格魯兒曹謨なり。

◎加里鹽は穀菜果實の如き海陸植物性食品中に多く含有せられ、那篤倫鹽は海陸の魚鳥獸肉及卵子の如き動物性食品の多有する所なり。

◎肉食動物の齒牙は鋸狀をなして鋭利に、下顎は橫斜運動を要せず、其形よりして獅虎の如きは、本來肉食性たり。之に反して牛馬の如きは、臼齒をそなへて、其齒の上面は碾の目の如き樣をなし、下顎は充分なる橫斜運動をなす。其形既に草食動物の本性を備ふ。而して

◎人類の臼齒は恰も舂の形をなし、下顎よく橫斜し、能く穀物をこなすに適せり、本性穀食動物たる所以なり。されば人類は何の世に在りても穀物を以て主食とせざるべからず、これ天理なればなり。然るに方今世人、美味は却て肉食に在りとして、菜食を輕んずるは、抑も誤まれり。其所以は後に至りて說明すべし。

◎動物の肉食、穀食、草食を分つ、既に其天性によれり。さかるに今草食動物即ち牛馬を飼養するに、人類の食物たる雜穀を給するに於ては、恰も穀食動物が、肉食動物に必要なる肉類に資ると等しく、造化の妙理に背馳して、牛馬が稟賦たる負擔馳驅の兩力を減損して、爲めに久時の勞役に堪へざらしむ。また外觀的に所謂感性を養成せんと欲して、或は食鹽又は糠味噌汁を糧秣に飲料に混入するに於ては、其品格佳良に壯快の肥馬を生ずと雖も、こはなほ人間の鋭氣秀發するものと同じく、其性敏性にして、所謂駒の早驅とて、只近距離の馳驅には差支へなしと雖も、距離遠ざかるに從ひて、持久負擔の力を失ひ、いたく疲勞す。

◎本來人類の保健生養には、蛋白脂肪澱粉と共に、加里と那篤倫とを必要とするものにして、加里鹽は血球筋肉細胞組織等に之を多有し、常に血液をして、粘稠の患なく、循環流利を適當ならしむるものなり。加里と那篤倫とは夫婦の稱あり、故に兩者相待ちて營養を全うす。酒の如きは加里鹽を躰內に輸入すると少くして却て那篤倫鹽の鬱滯を來すが故に、血液の粘稠を來すとあり。されば大酒家は硝石の如き加里劑

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を服用するの要あり。

◎加里鹽は肉類よりも、穀類及び薯類の中に含有せらるゝこと多きを以て、此等の食品によりて、專ら營養を資らしめんとするも敢て不可なることなし。然れども搗臼せし米麥の主食には、其含む處の蛋白脂肪、含水炭素の量に比例して、加里鹽を富有する豆類薯類及び野菜類を副食せざるべからず。殊に我邦の如き海國にありて、鹹味を食すること多き人民は更に其多量を要す。

◎魚鳥獸の肉は加里鹽を含有すること少しと雖も、其味の美なる特質あるを以て、美食品として時に間食すべきも、漫りに需用すべきものに非ず。牛乳羊乳は加里鹽を富有し、牛羊豚の肉は之に次ぐ、又河魚は海魚よりも多く之を含有す。

◎加里鹽を多く含有する食物は腐敗し易く、之に反して那篤倫鹽を含有する多きものは腐敗すること遲し。これ加里鹽は酸化作用の主動者たるも、那篤倫鹽は酸化作用の鎭抑者なるが故なり。桃李の如き加里鹽を含有すること多き果物の、其截片の空氣に接する少焉にして褐色に變ずるは、加里鹽の酸素を吸收するが故なり。

◎加里鹽はまた解熱の力を有し、那篤倫鹽は之に反して保溫の効能あり。

◎夏期は冬候よりも空氣稀薄となるを以て、酸素の量も從つて減少し、爲めに吸氣の數の其割に增進するか、もしくは酸素過多の空氣を吸收して適度を得るに非らざれば、食物消化の力減弱して、啻に精神爽快ならざるのみならず、元氣躰力の倦怠を來す可し。是れ普通に夏季は冬季よりも、食物減少する所以なり。

◎されば又夏期の營養を全うせんが爲めには、多くの酸素を吸收するの必要あるによりて、從つて多量の加里鹽を必要とす。されば夏季は冬季よりも其食物に胡瓜、甜瓜、白瓜、西瓜、南瓜、茄子の如き、また多くの果實の如き、加里鹽富有性のものを需要し、而して天然の此季に當りて、此類の蓏果を多產せしむる、蓋し妙配劑といふべし。

◎美味華食する都會魚鹽地の人民及び帶患不健康人が空氣療法を主とし、殊に春夏の交より霜降以前の時期中に於て、轉地療養をなすには、松柏杉樅等の如き常盤木森林ありて、流水等の閑靜地にして海族の鱗介類に便利なき土地の溫泉場を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

宜しとす。かゝる土地に二三週間滞在して、頻りに入浴すれば、皮膚の色澤の淺黑き、虛弱肥身の不勝躰格を變じて、實性健康の瘦身達者となし、色澤薄く且つ白く氣宇爽快に元氣勃々たるを得べし。

◎之に反して、松柏等の乏しき海濱に轉地して、海水に泳浴し、新鮮の魚類を多食し、野菜果物を擯斥するが如きとをなさば、實性健康の人も、皮膚の色澤暗黑となり、虛身肥大の躰格となりて、一時の躰力大に增進するが如きも、これ決して佳良の狀態に非ず。

◎加里と那篤倫とは、其性相近くして、試藥を用ゐずんば、容易に之を識別すると難きものなりと雖も、加里鹽は本來空氣より水分と酸素とを吸收するの性質即ち吸水作用を營むの力を有し、之に反して那篤倫鹽は本來自他の物質に抱有する水分を脫却するの性質即ち脫水作用の力を有す。されば今加里鹽多有の陸海品植物の食品を水を以て煮るに、此等は吸水して膨大軟化し、やがて崩解するを以て、此等食品を以て營養品となすには、那篤倫鹽即ち食鹽含有のものを加味せされば、却て速に消化吸收するのみならず、加里鹽の過多より、空氣中の水分と酸素とを吸收するの度を增進する爲呼吸脉搏等の亢盛を來すべし。また那篤倫鹽を含有すると多き海陸動物の食品は、水を以て煮る時は、此等は脫水作用の爲めに、其高四分の三乃至五分の四に縮小し、或は凝固して緻密となる。されば此品類を多食して、加里鹽富有の植物性食品を副食せざれば、人身の器質は脫水せられ、機能は鈍麻し消化は遲緩に吸收力衰へ、生活力の正度を失ふに至る。故に加里性の食品と那篤倫鹽性の食品と兩々相助けて、夫婦アルカリの適度に於て結婚するによりて、營養を全うす。

◎鷄を軟にせんと欲せば、熱き木灰湯(加里鹽を有す)に漬すと約二時間に二回許其湯を交換すれば、充分に膨大し、其色白くなりて、宛も生烏賊の如くなる。また鮒を甘露煮となすには、一先煮枯しの番茶(これまた加里を有す)にて煮れば、茶中の單寧性の爲めに、身の崩るゝとなくして、頭も骨も充分に軟くなり、之を調味して食すれば、絕て骨の障るとなし。

◎然るに最初より醬油もしくは鹽を入れて魚鳥獸肉、卵、鷄、豆類を煮れば、其質堅性に變じて縮小す。以上の道理を推ま

て、人躰の筋肉、骨骼、皮膚等に及ぼす、夫婦アルカリの相互の作用を知るべし。

◎山地より海濱に近接するに從ひ那篤倫鹽を多食して、加里鹽を少食し、海濱より山地に移行するに從ひ加里鹽を多食して那篤倫鹽を少食するは即ち自然の通理なれば、今山家人幷に蔬菜食の人に適應する那篤倫即ち曹達劑の藥物、及び動物性滋養物は、魚鹽地並に肉食の人民に向つて其効驗最も少きも、之に反して加里鹽を多有する菜食物は前者よりも、後者に効驗多しとす。

○先づ肉類を煮て而して後其汁にて、或は葱或は豆腐又は蒟蒻の類を煮るは、前後ともに料理法に適せず。凡そ海產物と陸產物とを混じて煮、動物性肉品と植物性品質とを混じて煮るべし。食鹽の多き古澤庵を煮んとせば大豆を混じ、那篤倫鹽の多き鯡を煮るには昆布巻となすが如き、芋に鯖、芋に棒鱈、豆に混布、牛肉、魚類及貝類の佃煮に生薑とて、古へより合せ煮て佳味なるをいふは、これ夫婦アルカリの混和作用あるを以ての故なり。

◎田舎者の鹹きを好むといふは、平生多量の蔬食をなして、多量の加里鹽を食用するが故に、從つて多量の那篤倫鹽を必要とするなり。されば近海魚鹽地に住して、多量の肉食をなして加里鹽よりも多くの那篤倫鹽を食用したる人民、殊に之が爲めに胃弱を兼ねたる中等社會の人には鹹味に過ぎて、其口に適せず、且つ不消化物も、田舎人の口には適し、本來那篤倫鹽を多有する青魚に尚又食鹽をまぶして乾燥したる、鹽鮭、鹽鯖、鹽鮪、鹽鰹の如きもの、彼等に珍重せらるゝなり。

◎されば食鹽は海陸產また植動物の食物種類に應じて其需用に多寡を生ずべきは自然にして、且つ又大陸人民と海島人民とは、其需用の量に於て差異あるべき筈なり。支那、印度、普魯西及合衆國中部の如き海洋に遠き內地居住者は、常に食鹽の必要を論じて、曹達劑の効能を重んずれども、之を以て直に我邦の如き沿海の人民も亦然りといふべからず。山間の民と海濱の民と、曹達劑の効能に差異あるをこれ醫師の心掛くべきものなり。

◎海中に陷りて溺死せんとしたるものが、やうやく其死を免れて無人島などに漂着したる節、あまりの渴乏に堪へず、清水をもとむれども之を得ざるが爲めに、やむを得ず海水を飮

めば一二日にして忽ち落命すべし。されど此時己れの小便水を飮むならば五七日以上食物なきも性命を繼ぐことを得。故に船頭は常に此事を心掛け居るなり。其理は食鹽躰中に入れば、直接に內臟及び其他の組織に脫水作用を起して、營養水分を減じ、爲めに器質凝縮して機能鈍麻するが故に水分の補給を欲するより、從つて飮めば從つて渴すること愈甚し。鹹味の食物を食ひたる後に咽喉渴きて水を欲するも此理なり。然るに小便水は加里鹽に富むを以て、脫水作用を抑制し、又大氣中より水分と酸素とを吸收し爲めに冷汗なども、饑渴時の身躰に適ひたる丈に排泄するが故に、性命を繼ぎ得るものなり。

◎海少陸多國の曠原地より輸出する罐詰煉乳は幾年間を經るも、其乳の凝結する患なしと雖も陸少海多國の魚鹽地または臨水卑濕地より製出する乳煉は、概して一年乃至二年の後に至れば凝結して、啻に變色を來すのみならず、其罐と乳と隔離して、之を振ればカラ〳〵と音を發するに至る。これまた前者の地方加里鹽多く、後者地方の那篤倫鹽多きによる。

◎米國の如き大陸地より我邦に輸入したる乳牛の、輸入後年を經るに從ひて乳量を減少する、また都會美食の家にて山家では田舍より僱ひ入れたる乳母の漸次乳量を減ずる、共にこれまた夫婦アルカリの差數によれり。

◎牛乳を絞るに先だち、乳牛の舌に食鹽を塗布することをなすは、食鹽の脫水作用を起して渴乏を來すより多量の水を飮むが爲に、從つて乳量を增加するが故なり。

◎肉食殊に魚食する人種には便秘の癖あり。水腫病を治するには多くの加里劑を服せしむ。脚氣病患者に鹽氣なしに煮たる小豆を食せしむるは、其中なる多量の加里鹽の吸水作用を起して、利通を宜しくせしむるが故なり。

◎大躰よりいへば、人躰の健全なる營養に於て那篤倫鹽の量は加里鹽の量よりも少許なるべくして、夫婦アルカリの差數相近づくが如きはよろしからず。されば人類は穀菜を主食として、肉類を副食とすべきものなり。近頃外國に於てもヴェヂテリアンと唱へて菜食論を主張するものあり。

早秋苦熱堆案相仍　　杜少陵

七月六日苦炎熱、對食暫餐還不能、每愁夜中自足蝎、
況乃秋後轉多蠅、束帶發狂欲大叫、簿書何急來相仍、
南望靑松架短壑、安得赤脚踏層氷。

文藝

評釋 海の上 （枕草紙の一節）

長汀子

舟のみち、日のうらゝかなるに、海のおもてのいみじう、長閑に、淺みどりのうちたるを引きわたしたるやうに見えて、いさゝか、おそろしき氣色もなき若き女の、衵ばかり着たる、侍ひの若やかなる諸共に、艪といふもの押して、歌をいみじう謠ひたるいとをかしう、やんごとなき人にも見せ奉らま欲しう思ひいくに、

枕草紙のうちとくまじきものといへる箇條の中に見えたるものなり。若夫れ海上、風、波をあげず、其平穩なるとや、清少がいへる淺緑の絹を廣々と布き延べたるが如しとも評すべく、亦青疊を敷き詰めたるが如しともいふべからん、清明の日の舟行、その閑雅いはんばかりなし。況して、水手の船歌いたく興を添へて快し。さればこそ清少も、かゝる景色をば、都は九重の宮奥深くましますやんごとなき人にも見せ奉らば、いかに興がりたまふべしなど、その長閑きにつけて思ひやらるゝに、されど心を許してうちとくまじきものは、變りやすき海の上なり、舟路なり。いまの今まで穩に和やかなりし空は、忽ち面がはりして、見る〱、

風いとう吹き、海の面の只荒れに悪しうなるに、物も覺えず、泊るべき處に漕ぎ行くに、舟に波のかけたるさまなどは、さばかりなごかりつる海とも見えずかし。

風吹き荒み、波高く騒ぎ、船中安き思ひもなく、生心地せず。早く泊りに着けかしと祈れども、舟は波をかつぎ、ゆられ〱て、進み更にはかどらず。先きの穩と今の不穩と僅に一刻一時を隔つるのみなるに、扨ても海面の變狀その速かなる、あな頼み難たや。

おもへば舟に乘りてありく人ばかり、ゆゝしきものこそなけれ。よろしき深さにてだに、さまはかなき物にのりて漕ぎ行くべきものにぞあらぬや。

海上のいと心許なく、安心ならざるにつけて、扨てこそ思へ。東より西へ、西より東へ、大海河江を舟にまかせて旅する事ほど、いとはしきものこそなけれ。船路の旅ばかり、行く人も、送る人も、心にかゝるものぞなき。アゝ假令にも、大海深水恐るべきならぬとも、眇乎たる舟に駕して、水の上の旅はせぬものぞ、こゝより大方の舟路につきていふ。

まして底ひもしらず、千尋などもあらんに、物いと積み入れたれば、水ぎは只一尺ばかりだになきに、下司どもの聊か恐ろしとも思ひたらず、走りありき、露あらくもせば沈みやせんと思ふに、大なる松の木などの二三尺ばかりにてまろなるを、五六ほう〱と投げ入れなどするこそいみじけれ。

而も千尋の大海に浮べて、人多く荷重き舟の、舷の水際はなるゝとも僅ばかりにして、外より之を見れば危險いはんかたなき計なるに、水の上に世渡る水手等の平然として、波に逆ひ、風に駕して、小舟を御する、業なりはひとはいへ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すざまじや。されど見ても角ても、陸さても水さても浮き世なり、渡るのあやうさを云へば彼も此も、豈に何のけぢめかあらんや。さらぬだにあやふきに、大木をしきりに投げ入れて、舟いよ〳〵脚を投する、すざまじさもすざまし。

屋形といふものにぞおはす、されどおくなるは、いさゝかたのもし、端に立てるものどもこそ、めくるゝ心地すれ。

水手がなりはひに物積み荷送る小舟の危さはさらなり。今更めて貴人の召さるゝ篷庫（やかた舟）といふものゝ、大きくて、麗げにまた安げなりと雖も、其奥深く在す方々はやゝ安穏の思ひもありぬべし。されど下々の人、端近ふ候ふは、なほ波の騒ぐに眠くるめかんとす。

早緒をつけて、のどかにすげたるものゝ弱げさよ、絶えなば何にかはならん、ふとおちいりなんを、それだにいみじう太くなどもあらず。

たゞに外より大らかに打見たるのみならず、こゝわけて舟の危きをいへば、艪につけたる早緒すげたる鐶は、頗るかよわげに、また早緒さても細やかなり。鐶たえ、早緒切れなば、水手は水に落ち入りて、玉の緒はた絶ゆるともありなんを。しかるに彼等は平然として意に介せざるものゝ如きに非ずや。まづ鐶の可弱さ危さをいひて後、たゞ早緒の細きのみをいひたる、文章の巧みにして、餘情をこめたり。

我乗りたるは清げに、帽額のすかげ（モツカウ 緑ノ簾之）、つまど格子あけなどして、されどひとしう重げになどもあらねば、たゞ家の小さきにてなり。

更にまた清少等が乗る船のさまをいへば即ち屋形船にて、たゞ家の小さきまでのもの、安げも安けれど、艪下てあたりに泛々たる小舟を顧みれば如何。

こと舟見やるこそいみじけれ、とほきはまことに、笹の葉をつくりて打ち散したるやうにぞ、いとよく似たる。

泛々たる小舟、恰も幼児が手すさびに笹の葉舟を水に浮べ散したるが如くにも、思はれて、頗る頼もしげなし。

泊りたる處にて、舟ごとに火ともしたるをかしう見ゆ。

大舟小舟の安きと危きとをたくらべて云ひ來りたるも、念の浮ぶさ、文の勢さより、夜の泊の楫枕、百船にさもす火影の波に浮びたる美しさ、あげて云はざるを得じ。

はし舟とつけていみじうちひさきに乗りて漕ぎありく。

太船なほ危きにまして小さきと艇舟に打乗りて波に泛ぶ、危険茲に於てか極まれり。

早朝などいとあはれなり、跡の白波は誠にこそ消えもてゆけ、
よろしき人は乗りてありくまじき事とこそ猶おぼゆれ。

筆を轉じて早朝を叙す。舟を浮ぶるも、浮べる舟を見るも、早朝の景や、あはれにおもしろし。早朝の舟を思ふにつけて、朗詠にのせたる、

世の中を何にたとへん朝ぼらけ
　こぎゆく舟の跡のしらなみ

とある古歌を心に浮ぶるに、世の中の果敢なきと、漕ぎ行く舟の跡に殘す白波の忽に消ゆるが如し、されば世を渡るも舟に乗るも、果敢なさをいへば撰ぶなしと雖も、貴人は乗るまじきものと、今更また感ずと清少云ふ。

かち路も亦いとおそろし。されどそれはいかにも〳〵、土につきたればいとたのもしと思ふに。

されど水上ならぬ陸路の旅とても、危き事また多けれども、それは、ゆるぎなき大地の上を踏むとなれば、なにとなく頼もしく思ひて心を安むるなり。

潜女のかづき（潜）したるはうき業なり。腰につきたる物た

えなば、いかゞせんとなん。そのこだにせば、さてもありぬべきを、女はおぼろげの心ならじ。

船路のうき事さまぐ\述べ來りて、聯想の促す處、海中に潜きして、め刈り貝とる海女のものうくはかなき業に心および目も及びて、其上をいふ。いにしへの海士は腰に桴をつけて水に入り、其かたはしは舟の人持たりしとぞ。後鳥羽院の御製にも

難波江や蜑のたくなはたきわびて烟にしめる五月雨のころ

とある見るべし。さてこのうき業、男のするならば可なり。可弱き者とせられたる女の業と定まりて、如何に心安からずわびしき業にこそあるらめ。

男は乘りて歌など謠ひて、此たぐなはを海にうけありく、いと危くうしろべたくはあらぬにや。蜑ものぼらんとては、其繩をなん引く。取まどひくり入るゝさまぞ理なるや。

我可愛の妻または娘をすざましき海中の深みに投下ながら、男心の平氣なる、已は安らかに舟にのりて、快げに、だみたる大聲の鄙歌を、海風に送れるはそも此業を危しとも思はぬにや。習ひこそ恐ろしけれ。されど海女の息せまる程に水中よりあげてよと繩ひけば、男の急ぎまどひて引き上ずは、業の危さ、妻はた娘のいとしきとを知ればならん。

舟のはたをおさへてはなちたる息などこそ、まことに見る人だにしほたるゝに、おとし入てたゞよひありく男は、目もあやに淺まし。

海女の水より引き上げられて、まだ舟にもえ入らず、わづかに舷端に肱かけて、太く苦しく息をつくは、いと哀れなるさまにて、その着きたる衣よりは潮たるゝはもとより、見る人の目より涙ほほたるゝばかりぞかし。然るに此状を何ごとも思ひたらず、他ならぬ女を潜がせてなりはひをなさしむる男心の無情なる、驚くべき淺ましさて、清少こゝに同情の筆を下す。

更に人の思ひかくべき業にもあらぬことにこそあめれ。

結ニ 更に大なる同情を彼潛女によせて、此業人の願ふべきものにあらずと斷ず。清少は女ゆゑに同情を寄することの多き見るべし。近き頃の新聞に佐渡が島の某、娘三人を都に連れ來て、海女の潜を業とせしむるよし見ゆ。清少あらば何とかいはん。

總評 一文變化に富み、曲折に巧みに、聯想隨記意を勞せず、筆滯らず。その落筆の妙婉なる、淸少納言の老手ならでやは。

露伴子の作文苦心談

露伴子、客に語りて曰く、

文章は經營慘憺でなくては到底名文が出來ぬと信ずる。今の世の小說家中に於て、最も文章に苦心するものは、紅葉君である、紅葉君の文は、斷章零句といへども、苟くもせられぬ證跡は、ありくと原稿紙に見え、その文字の上に現はれてゐる。篁村君も文字の、洒落なるに似ず、稍ともすれば、造語の彫琢に時を費して、一言半句の文字に二日間さ、腹の中で捏ね廻して居ることがあるさうだ。一體文章を成すには、一期、二期、三期、四期位まであつて、達筆な人はその一期、乃ち最初浮び得た思想を、直に文に寫し

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

その儘公にする人が多いが、それは賛むべきでない。上手のする事で、銘人のする事では無いと思ふ。人已に文を作らうと思ふ以上は、一期の思想は誰にでも起るが、それを練り、それを鎔かし、或は火にかけ、水に浸して、一分一厘狂ひの無い點まで敲き上げてこそ眞正の名文とも、鍛鐵とも云ふべきなれ。例へば月を描くのにブンマワシを遣ひッ放しにするのは一期で、先づ雲を描いて月に見せるのが二期で、描かぬ月の影を水に見せるのが三期で、ツマリ月も畫かず、雲もあらぬ冬夜の、何處か月の寒い心持を、或る物躰に移して見せるのが四期ではないか。ブンマワシの月を、刷毛で塗り隠す位なら、誰でも出來る、が、その月を月と云はずして、月の心持を見せるのは、經營慘憺の極で無くては出來ぬ、僧敲月下門、この五字の詩句を、斯く微塵隙も無いやうに鍛へ上げるには、幾年とかを費したといふぢやないか。一期の時分には、願ふに僧は押とでもやつたらう。二期の折には、撫ずとでも嵌めたらう。潰して、敲いて、伸して、鍛へた曉に、漸く形をなしたものは「敲」といふ一字である。

雜録

草刈の休憩に題す

鷗

一幅の圖畫、その表す處を視よ。

限り知らぬとも云ふべからん、漠々たる高原、頃は春や昔の夢と過ぎにし、夏草のおどろ〳〵に繁りあひ、眺むれば、緑色濃き葉草に混るは、紅、紫、薄色の、色も名さへもいろ〳〵の花咲き亂れ、あかぬ眺の景色なり。

夏草は結ぶに餘るばかり茂りぬ。秣刈るべき時は來りぬ。賤の男の、朝きだき、うからやからを打ちつどひ、諸草に置ける白露蹈み分けて、裳裾も脛もしとに霑へど、今日の勤めの忙がはし。

いたく疲れしか、はた飢ゑにしか、照日さゝぬ陰にやあらん、とある岩ほ――彼等が例の休憩處、――に腰打ちかけたるは。晝餐や取り了りけん、籠は前に投げられたり。大鎌を横たへたる賤の男の。一服の烟草に休へる、其顏の恁に老實

なるよの膝に首を安んぜる一頭の山羊こそは、彼の勞に代り、

なるよ。膝に首を安んぜる一頭の山羊こそは、彼の勞に代り、其家族に乳を供するもの、これも家族の一人なれば、今日亦群より放たず。

其妻は嬰兒に乳房を與へ、長女と思しきは父母に間して憩ふ、狀殊勝なり。彼と何事か打語らふ如くに見えて、團欒に近く歩み來りつゝあるは、その仲兒とおぼし、花其エプロンに盈ちて笑み、兒滿面に笑波を漲らす。摘める花は何ぞ、さゆり、姫百合、月要草、なほかず〳〵の草ならん。美しき花その笑むが故に、此兒喜色あるか、はた愛らしき此兒その喜色あるが故に、花咲むか、知らず。たゞ知る、天閑に、地喜び、人和し、微風亦時に來りて、彼等の胸襟を拂ふを。

三兒は父母の寶なり、此業は彼等の世渡るたつきなり、此やすみは、洵に平和喜樂の時なり。夏草のことしげき世もうしとせず、この家族とこの休憩とを樂んで、彼等は王侯の尊きをも知らず。

此畫、原圖は獨國テエー、グロップ(C. Grob.)氏の一千八百八十六年に描けるものなり。

今様夫婦氣質 (下)

紫琴女史

○約定證書の持腐りは、犬も喰はぬ喧嘩の本色提燈に釣鐘、釣り合ぬは不緣の基と、いひしは昔の昔の話。今では愛情の、一致だにあらば、よし華族樣の御夫人に、小屋ものゝ娘が上らうとも、長持のせぬには限らぬ簞笥釣臺、取揃へての拵へ取り、大流行の世の中とて、そんな事氣にするものはなき、太平の御代に、是もたしか其お仲間とか聞きし。名も數寄屋橋近くに、金輪内雅と名のり玉ふ紳士樣。門柱太しく立てし黑板塀、官員樣ならば高等官三四等がものはある御生活向き。旦那樣のお時計と指輪だけにても、確に千圓の價値はと、隣の財寶羨むものゝ私にお噂申しける。夫れしては高利貸めきたる男の、革提下げたるが、出還入するも異なものと、是はいふだけ野暴の沙汰か。お年は三十五六と見ゆれど、雀百までには、まだ六十年からの御餘裕のある事とて、中々の御出精。女といへば醜美に拘らず、ざら撫で

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の性悪を御存の上でお乗込ありし、奥様も亦曰くつき。そんな顔は少しもなさらねど、二三年前までは、水谷町邊で母娘二人のしがない暮し。味噌漉下げてお使ひ歩行の途中とは、夫れは人の悪口なるべけれど、何處やらにて、當時幅利の旦那様に見初められ玉ひしが、釣合はぬ御縁の緒。人橋かけての御申込にも、うかとは乗らぬ女親の細かい采配。萠え出る春に逢せ升るは嬉しけれど、かれ〳〵にならせ玉はむ、秋の末が氣遣はれましてと。いやではなきお斷りの奥の手は、一生見捨てぬといふ誓文沙汰。萬一にも浮氣らしい事した節には、何時離縁をいひ出らるゝとも、一言も申すまじ。又其節には違約金として、幾千の金を差出すべし。勿論母御の一生は、當方にて引受る筈、夫には月に幾許の手當と。注文通りの一札を、まんまと首尾よく請取たる上、やつとの事でお輿入ありしといふ。金箔付きの戀女房様。流石は多くの女共、見飽き玉ひし旦那の御鑑識ほどありてと、御容貌には誰も點の打人なきに、旦那様も御滿足の、其當座こそ二世も三世も、浮氣はせまいぞ心の錠。いさゝか以て僞りを仰せられし譯ではなけれど、光明輝く黄金佛も、一年三百六十五日、打通しての開帳には、有難味も失する道理。そろ〳〵性悪の尻尾押へられては其都度に、度々のいざこざもあつた末、うかうか年を過してはと、奥様は口惜し紛れ、こんな時こそ證文が、ものいふ人を頼んで來うと、愛から慾へ廻り舞臺。仕掛も大形な辯護士三昧、示談で行かずば表沙汰。愛はどうでも金だけは、取逃さぬ工夫をと、身分の輕い人だけに、お意氣込も御大層なる掛合振りに。旦那様も大吃驚、忘れたではなき證文の、文言を持出されては大變と、是も然るべき辯護士頼み込ての御應對。犬も喰はぬ喧嘩ながら、書いたものがあるだけに、辯護士の齒牙にはかゝりて、やつさもつさの談判も、旦那の方がどうやら負氣味。離婚といふに未練はなけれど、金輪内雅の名詮自稱、やりくり一つで持つ機關に、幾千圓の穴明けてはと。金に七分の未練ありて、辯護士同士が四角四面の交渉中。こちらは丸う出直せし旦那の智慧嚢、却て直接談判で、曖昧の局を結んだ方が、どうやら身腹の痛まぬ譯と、其所は手練の好文句、山鳥の尾のなが〳〵しき手紙でのお呼び出しも、懲りずまに二度三度。懲りては居ても連添ひし人の、斯く迄仰せらるゝものをと。奥様もお腹立の癒ゆるにつけて未練より

は、自惚の手傳ひて、我知らすお出向きの、談判は何處へやら。機先を制する旦那の上手。兼て欲しいとお話しありし、紋絽の丸帶、縮緬の浴衣、改めてお約束の、指環までも取添へて、いはねど悟れ、是程の心盡し、見捨てる我に出來やうかと。鰕で鯛釣るにこ〳〵顏、熔けるやうに笑はれては奥様も素〳〵まんざらではなき夫婦中。證書さへ握つて居ればと早速の分別。あれはあの代言が、勸めたのでござんする。私は離縁の望よりも、あなたのお浮氣が止めさせましたさ。夫なればいふ迄もない事、尙ほ一二年、添ふて見た上の了簡にせよと、お仲直りの御相談。忽ちに大磯へ避暑のお思ひ立。明日ともいはず直樣に、新橋よりの御同乘。跡に母御が口あんぐり、小言も急にはいひ出さね、其手持不沙汰加減よりも、氣の毒は、辯護士二人の、身の上にぞ止めける。

獅子吼ゆ誰か怖れざらんや
主エホバものいひ給ふ誰か預言せざらんや
アモスの書

容貌婦人の如し

容貌婦人の如しとは、漢の張子房を司馬遷が色許したる以來、あまたゝび世の傑士の評判に於て聞くところ也。近頃、維新前後の事歷を考ふるの時、ふと此事に思ひ當りて、書生に語りけるやうは、

井伊大老の時、其の黒幕となりて、京都に樞機を決し、殆んど掃部頭の政略を指圖せし長野主膳の勢力は、恐ろしき程のものなりしが、彼は、面白く、丈低く、やさ形にして婦女子の如く、只何等の抱負もなき歌よみの先生の如く見えしが、事に當りて人と相爭ふ時などに及べば、眼光異采を放ち、魔力忽然として生じ、殆んど敵を壓倒するの慨ありしよし。

西郷南洲をして初見の時より「此人ならば」と思はしめたる、淸水寺の月照和尙は、誰れも知る如き慷慨有爲の傑僧なり。全國を行脚して密に形勢をさぐり、當時の志士に交りて、革命の議をこらしつる人なれば、さこそ花

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

和尚の豪風やあるならんと思ふべけれど、實際は、至つて、しとやかなる、女の如き美僧にて、顔白く、聲細く、虫も殺さぬほどの有がたき上人なりしよし。

平野二郎、南八郎、橋本左内、横井小楠など、何れも多少は此の談しに因あるものなれど、今畧し、最后に維新の二英傑を言はんに、

西郷南洲は、人の想像する如き、英雄風の言動ありしものならず。若き時は温順にして無口なりしが、成長してもあまり物數をきかず、至つて丁寧にて口上信切なる人にてありし由なるが、就中、其の容貌は極めて優しき方なりし。或人、南洲の像をつくりて、勝海舟の許に持參し評を乞へる時、海舟笑つて曰く、西郷の像と云へば、恐ろしくつくるものと大抵の人は思へど、西郷は實際柔和の相貌にて、笑ふ時などは、殆んどタワイなき程の姿なりしと。

終りに今日七十七歳の海舟先生を見るものは、先生が年少の時、如何に美貌なりしかを想像するに餘りあるべし。當年の事を知れる古老はつねに曰く、先生が洗ひ髪姿を

見れば、少しニヤケ過たるほどの風采なりしと。先生亦常に曰く、余にして若し長身剛骨の風あらしめば、恐らく今日まで生命はあらざりしならんと。當時勝麟太郎と言へば、横紙破りの亂暴者と聞えしゆゑ、恐ろしき大兵の英雄肌なるべしと人も思ひ、狙撃する時などは大抵は見ちがへしもの也とぞ。

此等の例證にて容貌婦人の如き男子の往々にして極めて恐るべきとを知るべし。蓋し其の所以を思ふに、遺傳の美貌は暫らく言はず、其風相の柔和にして温雅となるは、胆度決着して胸中騷動せず、面上色定まり、眼中自から冷靜を表するの故か。

泥舟空拳槍道を演ず

坂本龍馬を京都河原町の醤油屋に斬つたる某と云ふは今ま現に静岡の邊りにあり。かの時、ツカ／＼と二階に上り、一刀を揮つて難なく龍馬を切り倒し

その時、義經、少しも騷がず……

てふ船辨慶の謡曲を落付拂つてうたひ乍ら、悠然として下りたりければ、龍馬は末期の眼を見張り、幕府にも恐ろしき傑士あり、油斷すべからずと遺言したるよし。

此の某が今に感服して、高橋泥舟の槍術につき語りける逸話を聞くに、ある時、廻國修行したる武者一人、江戸に來り、將軍の御前にて、槍術の仕合ひを爲したるとあり。技術拔群のよしにて、六十餘州到る處に、名たゝる相手を突き伏せし剛のものとぞ聞えし也。扨て、槍術仕合ひの道場とは、横十三間、竪三十間の大廣間にて、將軍、上座に臨ませられ、群臣星の如く居列び、かの龍馬を斬つたる某も席末に在たりけるとか。式の如く、中央に槍二つ置いて、双方相向つて立ち出で、一禮して、ヤット立ち上る際、如何なるはづみにてやありけん、泥舟が取らんとせし槍は轉がつて手には取られざりし。

左れど、泥舟は少しも騒がず、只だ其まゝ空手にて立ち上り、宛ら長槍を提さげたらん搆へにて、屹然として向へり。相手の武者は即座にも突込むべからんと見しに、之も亦た仁王立にて只だスキを窺ふ斗りなり。然るに奇しむべし、武者は双の頬より漸次に熱汗を滴たらせ、全身ヂリヂリ〳〵とゆるぎて小歩小歩、うしろに引退くと同もに、空拳にて身搆へたる泥舟はソロリ〳〵と進み出でしが、かの武者は歩々後下りになりて、思はずも三十間の道場の後壁に槍の石突を突き當て、一喝「マイッタ」と平伏したり。

後にて、武者の言ふやうは、泥舟の眼光閃々として我を射るのみか、今にも槍を引たくられん心地にて、たゞ〳〵後にすくむのみなりしと。

何等の藝にても、一藝に達したる消息は心地よきもの也。泥舟の「道」とする所を聞きたる面白き筆記は、かつて「日本宗教」第一號にて見しが、之に交へていよ〳〵其の面白きを感じたるまゝ記るして寄す。(某翁)

結ぶ手に涼しきかげをやどすかな
　清水にやどる夏の月
　　西　行
かき分けて折れば庵にそこぼれけれ
　淺茅にまじる撫子のはな

幼兒

花影子

あつさに眠る　老松の
梢さまして　吹く風に
軒端のすゞの　おもしろく
庭のかけひの　水おとに
涼しきしらべ　あはせつゝ
夏にもれたる　ひゞきなり
窓になかばの　しのすだれ
吹きくる風に　ひるがへり
はねも輕げに　蝶一羽
風のまに〳〵　飛び入りて
晝寐をなせる　をさな兒の
胸のほとりを　舞ひめぐり
いかなる夢をや　見すらむ
折をりきよき　寐がほにも
ゑまひ溢るゝ　さま見れば
夢路のさまぞ　おもはるゝ
世になき花も　匂ひつゝ
我等のしらぬ　鳥うたひ
蝶も天女と　白砂の
舞のたもとを　かはすらむ
天津つかひに　いだかれて
神とともにも　遊ぶらむ
この幼兒の　たどるべき
測りしられぬ　世のたび路
思へばわれは　ひたすらに
神のまもりを　祈るなり
神よ慈愛の　御手をもて
烈しきあらし　雨のなか
天津みくにゝ　入る日まで
かれを導き　たまひてよ
をりしもさめし　幼兒は
肥えたる手もて　目をすりて

肥えたる手もて　目をすりて
右に左に　まろびつゝ
手足のばして　欠伸して
つひには起きて　我顔を
見つめし末に　ほゝゑめば
我身もともに　ほゝゑみぬ

◎各地方の子守歌(一)　（高島平三郎氏の取調による）

●東京地方

坊やは善い子だれんれしな。坊やのお守は何所いッた。お山を越えて里いッた。お里のおみやに何貰ふた。でんく＼大鼓に笙の笛。おきやがり小法師に犬張子。」お山のお山の白兎。なぜにお耳がお長いの。おッかさんのぽつぽに居た時に、椋の實かやの實たべました。それでお耳がお長いね。

此子の可愛さかぎりなし。天にたとへて星のかず。山ぢや木のかず、かやのかず。七里が濱では砂の數。

●盛岡

れんれやく＼れんれして、おひなつたら、小豆まんまに、ことそへて、おかはりく＼してあげまするあげまする。たうどやさんく＼。あかいぽつぽくんなんせイ。しろいぽつぽくんなんせイ。まだ米うるけれイ。あさごきく＼よ。かあらすからす、うな(己)いくみちに、おんどうが建つて、いかれぬほどに、なんぢやもさよッて、なんばもさよッて、あづきまんまたべて、ぜんこあらつて、かつかさとんでいけ。

●磐城(平)

おからすく＼ぢッちやいぐ。てんとん町の湯サいぐ。なになにもッていぐ。あはごめこごめもつていぐ。おれにもちッさくんにエいか。やーればへろよ、へッたらつくれ。

●岩代(會津)

れんれろエーれんれろエ。れんれこ山の白犬子、一ぴきほえれば皆ほえろ。

●常陸

坊やのお守は何處へ行た、里をこえて山越えて、鹿島のふなへさ帶かひに、帶は七ひろ、身はやひろ。

●下總(銚子)

坊やは善い子だ、れんれしや。坊やのお守は何處へ行た。あの山こえて里へ行た。お里のおみやに何を持てくろ。でんく＼大鼓に笙の笛。坊やのお守はいつ歸ろ。やがてお目々のさめた頃、やがてお目々がさめたなら、あかのまんまに、とゝそへて、よいく＼く＼く＼、よーいよい。

●近江(膳所)

あすはいさのたいどよ日、たいどよ日には、あづのまゝたいて、連れてまゐろかのゝさんへ。れんれしたらば。何處へねかしよ。おくの八疊のまん中へ。

時文

◎松菊餘影　足立荒人編　春陽堂版

維新三傑の一人とし稱せられたる木戸孝允氏の傳紀なり、曾て讀賣新聞に連載せられたるものにして、博く之を記錄に討ね、遺老にたゞし、多く得がたき材料によりて編述せられしものといふ、以て此書の價値を知るべし。然れども著者は山口縣人の故に、御里の先輩を尊崇するに過ぎたる者に非らざるなきかの嫌なき能はず。その木戸孝允を觀ると、やゝ其本相より遠ざかれるものゝ如く、今此松菊餘影一篇を以てすれば、人をして維新の大事業一として木戸氏の手に成就せられざるはなかりしかの如くに思はしむるなり。況んや著者自ら記して、『王政の復古維

新の改革、偉功殊勳誰か木戸の右に出づるものぞ』といふに至りては、最も首肯すべからざるものなり。吾人は著者の如くに、木戸氏を以て維新の最大英雄、最大君子とゆるすと能はず。文字輕妙に過ぎ時に講談的なるは、人物を傳するの躰を得ず。

◎鶏肋　勝海舟著　春陽堂版

海舟先生大政維新の國歩艱難なるに處して、一身を擲ちて君國に盡瘁せられたる、其際の追懐記なる「外交餘勢」「幕府始末」「斷腸の記」三篇を輯めたるもの之を「鶏肋」と云ふ。其至誠眞實、字々涙なり人を動かすものたるは、世既に之を知る今更に亦何をか云はんや。

◎福翁百話　福澤諭吉著　時事新報社版

福翁百話其名既に天下に高し、これ實に近代稀に見るの名文章、其議論の如きは、しばしば本誌上に評論を加へたるとあり。故に又爰に贅せず。

◎新編 小學遊戲全書　白井規矩郎編纂　同文館版

此書載する處小學兒童に遊戲をなさしむる時の諸心得よりはじめて、共同的運動遊戲、靜坐的遊戲、弄毬的遊戲、個人的運動遊戲、理化的遊戲、雜種遊戲等總計百三十餘種を錄す。其遊戲種類は古來より本邦に傳はれるものと、外國に流行せるものを飜案したるものとより成るとぞ。遊戲中に歌はしむべき唱歌は文句上品に、また一々樂譜を添へたるなど、蓋し遊戲全書の名に負かずといふべし。

◎多情多恨　紅葉山人著　春陽堂版

共昨年中讀賣新聞に連載せらるゝや、讀書社會に隨分の好評あり、而も其美裝製本にて出版せられんといふとに就き前觸の盛んなりしとは、近來此「多情多恨」の如きはなし。まづ其製本よりいへば、隨分に澁つたるものなれども、却て世上の受けの悪しかるべし。外箱はカステラ箱のやうぢやなどゝ悪口申す京童もありとかや。その鷲見柳之助が妻を失て以來の擧動心情に就いて、綿密の筆を加へたるは、紅葉の頗る苦心したる處にして、また以て其文の老熟を知るべきも、全躰より評すれば、柳之助の愁嘆は涙に乏しく、却て葉山の世俗的なる方面の描寫に秀れたり。多情多恨はわざとらしき多情多恨となれることをなしむべけれ。讀書社會も新聞で讀んだる時よりも、一册の美本として再讀して、以前程面白く感ぜぬものらし、批評のあまりよく聞えぬにて推せば。

女界文壇雜俎　七月下半期

◎坊守婦人の教育　明教新誌七月二十八日

◎所謂婦人佛教徒（秋畝）　同七月廿日

◎日本女子大學設立に就きて（文明童子）　女鑑第百三十七號

◎小學女教師に告ぐ（杞憂生）　家庭新聞第七號

◎教育の効果を收めんと欲せば先づ賢母を養成せざる可らず（寺田勇吉）　女子の友第三號

◎普通女學の要旨（三輪田眞佐子）　同

片々

◎日本主義　は高等女學校の多設を望みて云ふ、日本主義は女子に相當の位置を認め、之を敬することを爲す、これ日本歷史の明に教示せる所なり、日本主義は女子教育の進歩を希望し之を計畫し又其任に當らざる可からざるの義務ありまた資格あるものなりと。

◎婦人佛教徒　は甚だ賴みなく、而して眞宗寺院の坊守婦人は古へは寺院に眞家庭を造出し、隱然たる宗門の大勢なりしも、今や其美風地を拂ふてなし、之を教育するに宗教的情育を以てして、他日大宗教家の母たる佛教婦人を造り、以て宗風を起すべしとなして坊守婦人の教育を論ずるは明教新誌なり。

◎日本女子大學　に反對するといはんよりも、無乃その主唱者の耶蘇教徒なるが故に、同女子大學は詐僞なり山師的事業なりとなしてしばしば其筆を改めて嫉視罵詈の言をなすは、女子に女德を教へんとするに熱心なる『女鑑』にあるまじき沙汰なり。翼くは三省せよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎秋田縣知事　は同縣教育會に諮問するに左の箇條を以てすと。土地の狀況により女子の教育法を斟酌するの必要なきか、もしありとすれば、其方法如何。

理由　女子教育を普及せしめんと欲せば、女子に日常適切の教育を施さゞる可らず、然るに今日の狀態は、都邑村落の種別に依り、大に風俗習慣等を異にするものあり、於是乎女子教育にも多少の斟酌を加ふる必要あるが如し云々

◎小學女教師　に望むとて彼等は己が教ふる處の修身の如何なるとを務むべきものなるかに注意せよ――豈にたゞ女教師のみならんや――然して嫁したらんものは良妻たれ、賢婦たれ、悖德不貞の婦となる勿れ、然らずんば小學女教師の名稱は結婚絕望を意味するものなるに至るべしとは、家庭新聞の某の說。

◎繼母根性と繼子根性　個人家庭に於ける繼母と繼子との嫉視軋轢は頗る慘憺たるものなるが、たゞに其範圍のみならず廣くは政治教育宗教其他の社會、または學校協會等にも、多くの繼母あり多くの繼子あり、嫉視の結果げに忌まはしきものぞ多からずや。

◎婦人の聲調　の男子に優れて高き理由を發見したるものあり、そは獨逸の婦人にてエムマ　サイレルと云へる人あり。その說く所によれば、婦人の聲門には別に楔形の小軟骨二個あり是最高調の音を發し得る所以なりと云ふ。之を發見するに至りたる迄の事情を聞くに、同女は一人の子を抱て良人に訣れ、其日を送るの策略として、音樂の敎師となりたるが、不幸にも其職業の種にする音聲一朝にして忽ち枯れたれば、今は如何ともする能はず、徒に天命を喞つのみなりしも、一日フと何が故に斯く聲は枯れたるやと思ふにつけ、他人にも此不幸に陷らしめざる爲め、若し法あらば適當なる唱歌法を工夫し、決して音聲の枯るゝ憂なきを得せしめんとて其より解剖學の硏究を始め、種々發音機關を熟察し、數年の後、斯く顯微鏡下に右二個の楔形小軟骨あるを發見したるなりとぞ。男子が如何にするも婦人の如き高調の音聲を發する能はざるは全く之が爲めなりとぞ。（時事新報）

◎日本新聞　其郵政小言に曰く歐米諸國に於ては、通信事務に女子を使用して其効果頗る見るべきものあり。蓋し事務の煩瑣にして敏捷の取扱を要する通信事務の如きに在ては、男子よりも寧ろ女子を便とするもの多きが故に、彼の地に於ては年次其數を增加しつゝありと云ふ。我國に於ても電話交換手は、概ね女子を採用して、大に其便を感じつゝあれど、其他の通信事務には未た此事あるを見ず。先年電信技手に女子を試用せし事ありしが、如何なる都合にてか其後之を廢したり。郵政の擴張と共に吏員の增加を要するの今日、女子を採用する事とせば、通信事務の敏活を助くると共に經費の上にも幾分の節減を見るを得べしと。

◎曩きに婦人撰擧權　を許容したるニユージーランドにて、頃は第二回の國會議員撰擧ありしに、其際德操潔白にして高尙なる人物多く勝利を占めたり、これ婦人撰擧者の影響によると。彼等婦人撰擧者は才能よりも德性に重きを置き、黨派的精神よりも人物を尊敬し、彼等は問題の解釋を後にして、之が解釋の任に當たる代議士の品性を先にするとを示したりとは、某氏のフオーラム雜誌に述ぶる處とぞ。

◎岐阜山谷　ジチンゴウとて篠笹竹等に結實する事頗る多く土人之を採收して食す。これ氣候不順にして饑饉の前兆なりと畏戒するものあり。

◎原胤昭氏が　減刑大赦の出獄者保護寄宿舍を起したる以來、既に半年に滿ちたるが、此程其半年報とて示されたるを見れば一月三十一日より六月三十日に至るまでの被保護者總數二百六十二人、內（イ）六月三十日現在寄宿者五十五人其內附加監視者四十一人、無監視者十四人（內廢疾者卽ち盲人、聾者、一本足、右手甲不隨各一人あり）◎（ロ）東京に新に家を搆へ營業をなすもの十七人（內新に妻帶したるもの四人）◎（ハ）常雇となり主家又は工場に宿泊正業をなすもの十四人◎（ニ）親戚又は知人の許に宿泊正業をなすもの二十二人◎（ホ）鄕里に歸りて正業をなすもの百二十七人◎（ヘ）各地方に出稼をなすもの二十五人◎（ト）死亡者二人にして寄宿者の最多數なりし時は八十八人、最寡の時は五十人なりしよしまた寄宿舍より無斷退去或は逃亡したるものは一人もなしと。原氏は此事業の爲めに自ら資力を擲ちて之に從事せるものにして、今回新に寄宿舍新築の企圖をなし、義捐金を募集しつゝあり。

◎三輪田女史の曰く　要するに普通に女子を教育するには如何なる種類の學科あるは手藝にても實踐を求むるを以てすべし、單に學者又は技術家を養成するごときは普通の女學目的に非ずと。

◎女子高等師範學校教授　中川謙次郎氏過般福島縣教育會に臨んで女子教育に關する演說をなす、其說中に曰く假に女子をして、主婦として、母として、妻として教育するの必要なしとするも尙人間として人道を行はしむるには、教育なかるべからずと。又曰く小學校の女兒就學奬勵は勿論、普通高等女學校、實科高等女學校、尋常技藝學校、高等文科女學校、高等技藝女學校を設けざるべからず、又此等諸學校の女教員を養成せざるべからず。又女教員養成は小學校の女兒就學を增加する爲に必要なるのみならず、小學校下級の兒童女生徒教育の爲めに必要なると、猶家庭に母を要すると一般なりと。又曰く女子の中等學校に於ては、母妻としての女といふ點に留意するを深くして、國民として又人類としての注意に欠ぐる處なきか、此等諸學校にては万事女らしくといふとに注意するの極、男女に共通すべきとまでも、强て區別を設けんとするの傾向ありて、女子教育の正當なる發達を疑ぐるなきかを疑ふと。

◎臺灣の蠻人　不正姦淫の行なく、其土匪も女子を害ふとをなしと、文明戰勝を以て誇るの本土人、耻色なくんば非ず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎征清役戰死將士の油畫と閨秀洋畫家

閨秀洋畫家中に其名聞えたる日高文子女史征清役戰死將士の油畫肖像を描いて、靖國神社內遊就館に寄附せんとして陸海軍兩大臣に願書を呈出せしに其趣許可ありしかば、中數名の肖像は既に成功を奏して、同館に掲げらるゝとゝなりし趣は、本誌昨年末終刊時報欄內にて報道したる如くなるが、此美擧一度び傳はるや、海軍々人中肝付大佐世良田大佐外二十四人發起者となり、西郷大將、伊東中將其他の贊成を得て、日高女史に托して戰死海軍將士肖像二十五面を大成し、之を遊就館及水交社に納めんとするの計畫あり、其主意書は左の如し。

◎征清戰死將士の油畫寄贈主意書

夫れ軍人の戰に赴くや固より生還を期せす今や征淸の役を去る殆んど二周年ならんとす余輩　聖恩に浴し生存するもの試に當時の戰友を回顧すれは或は沍寒を犯し怒濤を凌き身を礮場に致すものあり或は艱難を嘗め險阻を踏み敵愾を謀して命を原野に殞すものあり其の功の偉大なる其の志の壯烈なる人をして欽仰に勝へさらしむ　王師の奏凱未た必すしも其力に由らすんはあらす其の功勞は固より生者に減せすして榮幸は躬ら之を荷ふ能はす豈に悲しからすや余輩生を全うする者一念此に至れは感愴轉ゝ深く獨り恬然恩澤に沐浴するは情に於て忍ひさる所あり宜しく死者の名聲を不朽に傳へ永く英靈を慰むへし是れ啻に亡友に情誼を盡すのみならす庶幾くは後進子弟をして觀感興起する所あらしめんとす而して其の之を爲すの方法一ならさるも遺像を繪き其の風采を標示するか如き蓋し簡にして要を得たるの一手段と謂ふ可きか因て海軍少佐坂元八郎太海軍大尉中野信陽同高橋義篤同志摩淸直同瀨之口覺四郎同永田廉平海軍大軍醫三宅貞造海軍大主計石塚鑄太海軍少尉鈴木虎十郎同伊東滿嘉記同內崎徳同淺尾重行海軍少軍醫村越千代吉海軍少尉候補生橋口戸次郎同大石繁海軍上等兵曹四田新五郎海軍機關師中妻之宗海軍監修書記石川伍一合せて十八員の肖像各々二面を繪かしめ一は遊就館に納め一は水交社に揭け以て之を永遠に傳へんと欲し況く海軍部內の生存せる同志者に謀らんとす

是より先き日高秩父の妻りき子及其妹日高文子征淸役に於る戰死者の忠烈を表彰せんが爲め自ら奮て海陸軍將校下士卒二十六名の眞影を畫き遊就館に納むるの美擧を企て則ち我海軍に於ては坂元少佐中野大尉高橋大尉志摩大尉瀨之口大尉永田大尉鈴木少尉淺尾少尉橋口少尉候補生大石少尉候補生中妻機關師廣重二等兵曹柳原三等鍛冶手武內一等水兵等十四員とす既に坂元少佐中野大尉志摩大尉瀨之口大尉の像は前後告成忝くも　叡覽を賜はり遊就館に寄贈せられたり嗚呼一度此の畫像に對すれは神彩奕々生動するか如く其父母なり妻子なり朋友なり將た天下の人なり知ると知らさるとに論なく低徊顧眄感歎去る能はさるものは素より戰死者の忠勇義烈に由ると雖も抑も亦婦人等忠實の念と巧妙の技と與りて大に力あるなり

夫れ去る者は日に疎きは人世の常として而かも年を經るに從ひ知人も亦將に漸く少なからんとす是に於て此際各位の義捐を募り右婦人に托し更に此役に於て戰死せし准士官以上の油畫各々二面即二十五面（內日高文子等の志願に依て繪かるへき十一員の分は各ゝ一面）を繪かしめ遊就館水交社に各ゝ一面を揭け以て盛名を無窮に傳へ聊か友誼を盡さんと欲す是れ生存せる准士官以上各位の進みて合同贊成せられんことを企つる所なり

一　義捐は各位年俸の千分の一とす
一　義捐の御申込は世話人宛にて可成速かならんことを望む
一　御出金は義濟會捐金同樣別に金額人名表を附し各艦船團校廳主計官に於て御取纏めの上東京義濟會幹事神山昌臧宛本年七月三十一日までに御送附相成りたし
一　地方より郵便爲替は東京海軍省內義濟會幹事神山昌臧宛にて芝口郵便局へ振込まれたし

明治三十年三月

◎英照皇太后陛下御遺物の蠶種

英照皇太后陛下の此世にましませしほどは、常に大御心を養蠶の業にとゞめられしよしは、兼て聞き及びけるが、御崩御の後は、御遺物の蠶卵紙及飼蠶の機具等は、皆西非藏人上加茂村の鴨脚光長といへるものへ下げ渡し給ひたるが、其蠶種は又昔と稱する良種にして、鴨脚氏は今春心をつくして之を飼養したるに結果頗る好良にして、此程收穫したる繭なれば、兩陛下の叡覽に供し奉りたるに、頗る之を嘉し玉ひ、製糸すべきよしの仰せを蒙りたるを以て、鴨脚氏はこれを京都製糸會社に依賴して製糸せしめ、兩陛下には此糸にてハンカチーフを製織せしめ給ふの思召なりとか承はる。

◎孝婦賞賜　福井縣下今立郡粟田部村第十六號七番地平民農角長左衞門の妻シモは資性溫順にして長左衞門の妻となりしより、克く其の舅姑に仕へ、去る十四年中姑キヲ僂麻質斯に罹り、尋いで舅和三郎も復た中風症を患ひ、共に手足の自由

叶はず、起居も儘ならぬ不幸の身となりぬ、左なきだに家は固より貧困にして衣食の道も立ち兼ぬるに、シモ心を勵まして夫を扶け、且つ夫の妹フヂを憐れみ、相共に力を協せて舅姑の病を看護し、曾て醫藥の資を欠がさず、療養怠り無かりしも命數の盡る所か、舅和三郎は其後間も無く長逝せり、シモ夫れより專ら姑に孝養を竭し勞苦を厭はず艱難に安んじ今に至る十有六年の久しき一日も懈る事なかりしかば、去月二十一日同縣知事より大いに其奇特を賞して、金五圓を下賜せられたりと　（新福井）

◎貞婦旌表

廣島縣賀茂郡志和堀村
西道新三郎母　マツ

資性温柔夫龜助に事へて貞實殊に慶應三年夫不治の病に罹り身體自由を失ふや看護常に怠らず家素貧窶餘裕なきを以て晝は勞役に服して藥餌の資を需め夜は牀褥に侍して按撫慰藉到らざる所なく本年一月夫歿するに至るまで四十有六年の久しき志操一日の如し鄕閭其善行を賞せざるなし洵に奇特とす仍て爲其賞木杯一組下賜候事

明治三十年七月十七日　廣島縣知事正四位勳三等淺田德則㊞

◎秋田縣尋常師範學校女生徒の養蠶　秋田縣師範學校女子部に於ては、本年も蠶飼の業を營みしに、本年はいつもより一入好成績を得、結繭も美しく三斗ばかりの收獲を見るに至りしが、同地市役所より强ての望みに任せ之を委れたりとぞ。

◎女學校と琤瑠璃　大和奈良の大和女學校にて琤瑠璃語りの一座をまねきて、琤瑠璃會を催したりとて非難せらる。兎角突飛の擧動は賞すべきに非ず。

◎文部省女子夏期講習會　は八月二日より高等女子師範學校に於て開設せられ、課程は家事經濟にて、講師は三宅秀夫氏なり。

◎鶴岡町立高等女學校　の現況を聞くに生徒百名に近く、教員は重に小學校教員を以て充てたり。他郡市よりの入學生は二三人に過ぎずといふ。

◎仙臺市立高等女學校新校舍建設敷地　七月廿七日に開かれたる仙臺市會は、衆議により元寺小路天主教會裏地面を買收して高等女學校校舍新築地と決定したり。

◎妙齡の女三賊を斬る　茨城縣結城郡豐田村大字豐田橋屋の長女おもん（十六歲）は、己を潔うし妹を救はんが爲めに父の不在中自宅に忍び入りたる三賊を刺殺したりとなん。

◉在露國婦人會の注文　露國東部西比利亞黑龍州、ブラゴウエシチエンスク府在留日本人有志者は、大和會なる者を組織し、文學研究工藝練習の目的を以て同會に婦人部を設け、目下會員已に百二十餘名に及びたる由なるが、此程同會より神田共立女子職業學校へ宛て同校生徒の手に成りし編物裁縫その他百般の標本を注文し來りしよし。

◎女生徒の日射病　德島縣尋常師範學校附屬練習學校女子部に於ては、去月廿二日夏期休業に就ての閉校式を擧行するに當り、教師の不注意より一時に四名の日射病患者を出したりといふ。これに就て、同地德島日々新聞の如きは之を練習學校職員の一大失態として大に非難す。

◎大日本婦人義勇會　兼てしばしば報じたる、彼柳生流第九代の女劍客松本愛子氏の首唱にかゝる大日本婦人義勇會は先に其主旨書を發し、今やまた本部建築の義捐金募集に從事しつゝあり、其假會則といふは左の如し。

第一條　本會は大日本婦人義勇會と稱す

第二條　本會の目的は本邦婦人有志者の義捐金を蒐集し金額五百萬圓に達するを待ち之を政府へ獻納して一大軍艦の製造を請ふに在り
　但し豫定の蒐集期間を八十四ヶ月と爲すと雖も前項の金額に達したるときは募集を止む

第三條　男子と雖も本會の趣旨を贊して加盟するを妨げず

第四條　本會の幹部を東京に置き廣く全國に會員を募集す但し本會の都合に因り地方に支部を設くることあるべし

第五條　通常會員は每月金拾錢以下壹錢まで隨意八十四ヶ月間本會に納金を爲すものとす

第六條　一時金壹圓以上を本會へ納入する者を特別會員とす

第七條　本會の會員には徽章を附與す

第八條　本會の集金は擧げて之を確實なる銀行へ預け入るゝものとす
　但六ヶ月每に集金額を新聞紙上に廣告す

第九條　本會は名譽ある人に本會會計の監督を囑託す

第十條　本會の經費は募集金の利子を以て之れに充て專ら節儉を旨とし如何なる場合と雖も募集したる金品を消費せざるものとす

第十一條　會員は何時たりとも本會の帳簿を閲覽することを得べし

第十二條　本會は幹事二名を置き本會管理の責に任ぜしむ但し名譽職とす

第十三條　本會は全國各町村に於て適當の人を選定し之れに其部內の集金方を囑託す
　但し其囑託を受けたる者は每月末其集金を本部へ送致するものとす

第十四條　前條の囑託を受けたる者及び其他本會に功勞ある人へは特に紀念章を贈呈すべし

第十五條　會員三千人に滿ちたるときは總會を開き本會の組織方法を確定するものとす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

又其本所建築設計書といふもの左の如し

第一　婦人義勇會本部を東京市神田區三崎町三丁目壹番地に設立するものとす

第二　婦人義勇會は傍ら（やまと倶樂部）を設立して左の諸件を取扱ふものとす
　但說教、會議、演說、書畫、音樂、圍碁、美術展覽、能狂言、宴會、茶會、花會、其他は求めに應ずべし

第三　婦人義勇會は（やまと倶樂部）を以て本會を維持し餘金を以て天災又は非常の場合には救助するものとす

第四　婦人義勇會は本部建築費を大略金貳萬圓と假定して有志諸君の義捐を乞ふものとす

第五　婦人義勇會は本部建築成功の上は新聞紙上に於て有志の諸君に報告するものとす

此會の創立に關しては、自由黨諸員中に贊同者多しとの事なり。

◎海外女界

◎佛國婦人の世界漫遊　佛國人マッシオー女は、陸上世界漫遊を企て、去る頃印度緬甸、老撾及び交趾支那を經て、河內に入り、三箇月間も同地に滯在したるが、同地よりは雲南、四川を經て上海に出で、天津、北京に至る豫定の處雲南、廣西地方には惡疫流行するが上に、土民の動搖絕ゆる事なき由傳へられたれば、中止して紅河淸河に沿ひ、東京地方を探檢し、龍州に入りたる折柄、境界地の海賊鎭定の爲め、淸國將軍同地に出張し居たれば、其優遇する所となれり。同女の語る所に據れば土地の豐饒なる且つ氣候の溫和なる點に於て、英國殖民地中東京に比すべきものなしとなり。尙ほ同女は香港に赴き、數日間滯在の後上海に出で日本に至り、再び支那に入て天津北京を經、蒙古を橫貫し戈壁沙漠を超えて、西比利亞に向ふ筈なるが、其露西亞より佛國に歸るは來る十一月頃なるべしと云ふ。

◎希臘軍從軍女記者　ハリエット、ボイド孃といへるものあり、去る九月紐育ジヨーナルの從軍記者として希臘人の下婢十一人を伴ひて希臘軍に投じたるが、各所の戰地に於て大膽勤勉よく其任務を遂げたりといふ。

◎希臘駐在英國公使夫人　レデー、エッヂヤトンはテッサリーなる戰亂避難者を慰問し、且つ即位六十年祝祭の爲め英皇より贈惠したる救助金を分配せり。

◎英女皇祝祭　の爲め皇太子妃は六月廿四日倫敦府貧民五十万人を饗應したり。

◎英女皇の失明　英女皇の失明は虛傳なりなど云ふものも多けれども、確かなる報道によれば、實際不治の失明に陷り玉ひしとぞ。七十八歲の寶算、年と共に明また衰へたまひしなるぞ是非なき。

◎佛國オーヴフレッド夫人　といへるは佛國醫科學校に十七万弗を寄贈して、何國民たるを論ぜず、凝塊病（るいれき）治療法を發明したるものに賞金として其利子を與ふることゝなせり。

◎シカゴ府のエリサベス、エー、リード夫人　は其印度及波斯文學に關する名譽の功勞として、倫敦皇立東亞學會の一員に推撰せられたり。

◎ジョンス、ホプキンス大學　にて此程初めて一女子に醫學博士の稱號を授與したり。其女子はニューゼルシー州ペーヨンの人メリー、セコード、パッカード孃にして、先にヴアッサー女子大學を卒業したるものなり。

◎佛國の女學　佛國にては男女等しく教育せらるべしとの議論いよ〳〵行はれ、現に法律及醫學の諸學校、またはソルボン大學に於ては女子の入學を許可し、また美術總督は婦人にも男子同樣に技藝員に任ずるの建議を呈出したり。

◎巴黎慈善會　大火中に在りて、猛火をものともせずして二十度其中に突進して多くの婦人を危難より救助したる一御者ジョーヂといへる男子は此程同國政府より勳章を授けられ、永久政府に任用せらるゝことゝなれり。

◎墨西哥大統領夫人　は女子の職業場、勞働者の子女預り所幷に出獄人救濟局を起す等、頗る心を慈善の事業に用ふ。

◎アルメニア難民　救濟の爲めに出張せる米國のパートン孃はいへらく、三十万人のアルメニア人民を飢餓疾苦より救濟せんとするには、尙多くの義金を要すと。而してミチアポリス市の諸公立學校の男女生徒は市長プラット氏の手を通して、米國アルメニア救濟會に七百弗を寄贈したり。蓋しこは其學事評議會にて、赤十字社及パートン女史の事業を贊同するが爲めに、平素此程の事には一種の禁制を立てあるにも拘らず、臨時之を破りて、諸學校に寄附金箱を設けて、生徒の義捐金を集めたるなりとぞ。

◎英女皇　位を皇太子に讓りまして、御退隱あらせられんとするの意ありと風說するあれど、定かならず。

◎黑人女子公證人　米國ケンタッキー州ジョーヂタウンのエレン、ブラウン孃といへるは、黑人なるが、今度同市の公證人を認可せられ、而して特に養老金事務を取扱ふよし。米國にて黑人にて此業に當る、孃を以て嚆矢となす。

◎大英國赤十字社派遣委員　ウイルバーフオース孃は、キューバ島民慰問の爲に同地に赴きたり。

◎紐育市なる一公立學校　の校長フランセス、コムストク孃は、六月二十二日隣家火を失し、火勢いと猛烈なりしにも拘らず、全校生徒三百五十人の小兒を一處に集め、國歌アメリカを唱歌しつゝ、生徒等の恐慌を防ぎたり。

◎佛國巴黎の名高き唱歌教師　マチルド、マルチエン夫人は米國に來り、六ヶ月間四万弗の契約にて、紐育、シカゴ、ボストンの三市にて唱歌講習をなすとぞ。

◎アブラハム、リンコルンの母　ナンシー、ハンクス、リンコルンの墓地を保護し、且つ紀念碑を建設せんとするの議、六月三十日インデアナ州政廳に會したる軍隊幷に婦人救護隊の委員會議に於て可決せられたり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校義捐金領收廣告

第十回報告（慈善水彩畫展覧會の際の三）

金貳圓也　阿波松之助殿
同　羅百介子殿
同　角倉加邊殿
同　ウゥダー殿
同　フルベツキ殿
同　今非アサ子殿
金壹圓五十錢　稻澤英子殿
同　穗積介夫人殿
同　本田增二郎殿
同　伊藤爲吉殿
同　田村三治殿
同　鈴木彬卿殿
同　小原チカ殿
金一圓二十錢　太田敏夫殿
同　小鹿氏外二名殿
同　秋間タメ子殿
同　廣田フミ子殿
同　中村タツ子殿
金一圓也　塚原フミ子殿
同　龜屋殿
金九十錢　稻垣秋香殿
同　落合アイ子殿
同　津田ウメ子殿
同　矢島カヂ子殿
同　酒井キン子殿
同　波多野ハマ子殿
同　依田シゲ子殿
同　高田乙三殿
同　瓜生シゲ子殿

社告

故鈴木弘恭大人講述
六版
百人一首講義
正價金二十八錢
郵稅金四錢

同
布川靜淵小此木秀野合著
文法口授
正價金十二錢
郵稅金四錢

俳諧史傳
正價金二十七錢
郵稅金四錢

故若松賤子英文集
巖本嘉志子
正價金六十錢
郵稅金四錢

女學雜誌一手大賣捌　東京神田區表神保町　東京堂

明治廿七年二月十四日內務省許可
明治三十年八月九日印刷
明治三十年八月十日發行

發行兼編輯者　東京市麴町區下六番町六番地　巖本善治
印刷者　東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　根岸高光
發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社
印刷所　東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場（電話本局十九番）

明治廿五年三月十五日遞信省認可

雜誌代は凡て前金の事◎前金切れの節は封皮の捺印に御注意の上早速御送金有之度候◎爲替取組局は必ず四谷區麴町十一丁目郵便受取所宛になし被下度候郵劵代用は五厘切手一割増の事◎半年分前金は今回より金一圓拾錢に改正候事

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY